

婦人雑誌



第六卷
第五號

東京
弘道館

省

婦人と子ども第六卷第五號目次

卷首「春の野」 宮川春汀書

婦人と子ども

子供と春の自然界……………	牧 羊……………	頁
女子教育所感……………	文學博士 井上哲次郎……………	二
女子教育と人生觀……………	文學士 三輪田元道……………	四
女子の修養に就きて……………	學習院 女學部長 下田歌子……………	八
家庭教師……………	女子高等 師範教授 中村五六……………	九
笑ひ方……………	文學士 下田次郎……………	二
貞一の日記……………	その 庄……………	四
實驗上の育兒……………	醫學博士 瀨川昌蒼……………	七
春の野遊……………	豐 洲……………	三
短歌……………	眞宮起雲……………	三

俳句…………… 鹽野奇零…………… 四

うんどう會…………… 鶴 齡…………… 五

煩悶のお藥…………… 在米國 鈍 子…………… 六

端午の茅卷代り…………… 石井泰次郎…………… 三

婦人と親族法…………… 太田英隆…………… 六

桑港より…………… 在桑港 幼…………… 四

學校幼稚園のため

學校と幼稚園とに於ける管理の原則…………… 女子高等 師範教授 町田則文…………… 四

雜 錄

會 報

子 ども

うだつは上らないよ…………… 豐 子……………

●●緊急會告●●

別項本誌革新の辭にて申述候如く本誌は愈大改革の時期に接し申候従つて茲に會員諸君に向つて二三の重要な事項左に謹告仕候

一、本誌は從來會員にのみ頒布の目的にて本會自ら發行其他の事務取扱ひ致し居り候ひしが斯くては本會發展の爲め不利益と存じ今回東京市京橋區南大工町一番地書肆弘道館と契約して四月より以後本誌の發行及販賣に關する一切の件を該館主辻本卯藏に委托致し候因つて爾今本誌發送に關する件は總へて該館と御交渉下され度候

一、從來本會にて直接取り扱ひ參り候會費徵收に關する一切の件も前項同様弘道館辻本卯藏に委托致し候に付本月分以後の會費は同人へ宛て御拂込相成度候尤も滞納會費の徵收に關する件は依然本會に於て直接取り扱ひ申す可く候に付明治三十九年三月迄の分は従前の通り本會へ直接御送付

下され度候

一、本誌發展の爲めには會計の整理を以て最も重大なるものとす、因つて會費滯納相成居候諸君は明治三十九年三月迄の分至急取り纏め直接本會へ御拂込相成度候

一、爾今入會御希望の方は御申込は本會へ直接に會費は弘道館へ宛御送金下され度願上候

一、雑誌御購讀のみ御希望の方は弘道館へ直接御申遣され度願上候

女子高等師範學校内
フレール會

弘道館
辻本卯藏

東京市京橋區南大工町一番地

第一號發行

東亞之光

毎月一回一日發行

一冊定價金拾五錢郵税一錢
六冊前金九十錢 郵税不要
十二冊前金一圓八十錢 郵税不要

▲口繪

ガンタラー佛像

(アートムーブ
寫眞版)

文學博士 姉崎嘲風解題

○發刊の辭……文學博士 井上哲次郎

▲論說

○青年の煩悶と宗教思想……井上文學博士

○目で見る文學……芳賀文學博士

○見神の幻覺……松本文學博士

○女子の修養に就て……野田文學士

○幻覺的福……福來文學士

▲雜錄

○藝術の起源……徳の心理的事實と倫理的價值

△羨むべき小學教師○中學程度學生修養談

▲詞藻

○エリヤス翁……江 湖

○途中下車驛……果 山

○すみれ日記……漂 渺

○五十七士……瑟 琴 原

○幽韻の詩……晚 翠

○効なき歩……胡 蝶

○春風吟……鴛 北

○歌數首……鴛 北

○小袖……干 潟 の 人

評論○上流社會○中堅國民○教育者の志操○社

會的制裁○慈善事業○富貴の者○羽織乞食○戀

愛の神聖等其他和歌川柳等滿載

發行所 東京市橋區南大工町一番地 弘道館

荷



新



着



柄



物讀年少の類無と書育教庭家

醫學博士 瀨川昌香先生 校
 福岡縣師範學校主事 織田勝馬先生 共著
 長崎縣立高等女學校教諭白土千秋先生 共著
 (好評三版)

小學 劣等生救濟の原理及方法

洋裝菊判全一冊 正價金六拾錢 郵稅六錢

前東京高等師範學校教授 樋口勘次郎先生著
 ●國觀成美口繪挿畫

強 い 日本

菊判形頗る美本 正價金拾錢 郵稅四錢

樋口蘭林先生作 ●宮河春汀畫伯畫

歷史 熊襲征伐

菊判形美本 正價金拾錢 郵稅四錢

樋口勘次郎先生著 ●尾竹國觀畫伯畫

日本 の 覺悟

菊判形全一冊 正價金拾五錢 郵稅四錢

樋口蘭林先生作 ●宮河春汀畫伯畫

歷史 入鹿退治

菊判形全一冊 正價金拾五錢 郵稅四錢

農學士吉村清尚先生著 ●國觀 ●朶月畫伯畫

米 の 話

菊判形全 冊 正價金拾五錢 郵稅四錢

前付の四



野の春

小淵工堀石印



婦人と子ども

第六卷第五號

子供と春の自然界

人は自分に似たものが好きなのですが、子供も同じ様に、自分に似たものが好きです。三歳位の子供にして見ても、大人に遊ばして貰ふよりは、同じ年頃の子供と遊びたがる。そこで、かの昔話が好きなのも、この道理で、昔話は人類の幼稚の時代、即ち未開時代の作で、昔話には、人類の幼年時代の思想が顯はれて居るから、そこで、その昔話が子供に好かれるのだ。つまり子供が昔話を聞くのは、自分の物語を聞いて居る様な譯なものだから、夫で昔話が子供に歓迎されるのだといった人があります。

山も森も河も海も、世界のすべてが笑って居るといふ、一年中の今時を、詩人は年の少年時代といつて居ますが、まことに春の自然の愛らしい姿は、子供の天真爛漫の姿とよく似て居ます。こういふ所から、夏は身體もぐんにやりとなり、冬は小さく縮み込んで居た子供らは、春になると、丁度花の様に、鳥の様に「そら僕らの世界が来たぞ」と言はぬ許りに活潑にはれ廻ります。これも、一つは子供自分に似たものが好きだといふ所からでありませう。自然界に子供を遊ばせるといふことは、たゞ身體を健康にする許りではなく、實に人間の嗜好を高尚にし、延いて人生の殺風景を調和させることにならるのですが、これをなすには、實に今日の自然界が最上であります。自然が人間に與へた中にも、特に子供の世界として與へられた今日の自然界と、少くとも一日數時間は、子供等を友達として遊ばせたいものでありませぬか

(牧羊)

女子教育所感

文學博士 井上哲次郎氏談

▲近頃の新聞に盲目の法學士が其妻に捨てられたと云ふ事があつたが實に言語同斷な事である。之に比較すると先頃の九段坂下の立ん坊の女房と云ふのは見上げたものだが、併し是も時勢思潮の混亂より來るので仕方がない。

▲一体舊幕時代の社會制度が破れて個人主義の西洋思想が單に議論として輸入されて社會の制度が個人本位制にならない中に早くも其實現を試みんとする傾向が出て來たものだから種々に衝突が起る様になつたのである。

▲西洋では本來が個人本位であるから社會の制度は其に都合の好い様に仕組んであり、従つて其弊害を防ぐ途も夫々あるのに、我國の歐醉家は此邊

の察しがなく妄りに其思想を實現し様としたのは誤りである。

二

▲又近來女子の煩悶と云ふことが屢々云はれる様であるが是も亦時勢思潮の產物であると思ふ。其源因は種々あるだらうけれど、第一に世の生活が漸次高まると共に世渡りが益々困難となつて行く従つて各自の目的が容易に達せらるゝ見込がなくなつて來たと云ふと、第二には諸學校の入學迄に競争がはげしくて餘程優秀なものの外は皆落第の不幸に遇ひ善後の方針に窮する仕末であると云ふこと今一つは神經的な小説が青年男女の興奮して居る神經に投じて横行する爲めに之を讀む男女が益々神經質になつて其思想も其行爲も益々沈み益々落ると云ふ譯合で遂に思ひ設けぬ墮落の深淵に陥らしむると云ふ様な次第である。

▲是は誠に憂ふ可きものであるが去りとして是れは一朝一夕に救ひ得らる可きものでないから矢張人生觀とか處生の覺悟とか云ふ方面から今少し深く今少し力強く智的修養をしなければいけないと思ふ夫れに世の傾向を見るに人々の頭が此混亂な思想に倦きて何か力強さ或一物を求めんとして居ることは確かなもので西洋などでもヘツケルの様な人は彼の嚴然として社界制度の中に瀰蔓して居る耶蘇教の範圍を脱して超然として極めて自由な議論をして居る。是に因て見るに西洋でも日本でも從來の宗教に満足せずして、より以上の或一物を求めんとして居ることは確かである。

▲併し之に達するのには先づ第一に現在學校で行つて居る修身科の教授を大に改良しなければならぬ、現在の修身科教授は如何にも單純で唯乾燥

無味な理屈いぢりをして居るばかりであるから逆も此人間の靈性を感奮興起させる様な事は出来な否寧ろ眠むけを催ふす底のものである。

▲是に就て思ひ出すことがある、聞く所に因れば本年女子高等師範の卒業生が八十余人あつて、其中十一人は洗禮を受けた人だそをだ是は云ひ振らした人が宗教の教略上何か爲めにする所があつて云つたのだらうと思ふが併し兎も角も女子高等師範とも云れる處の卒業生が基督に依るに非ざれば安心を得ないなどと云ふのは如何にも殘念な事である。是で見ても學校の修身科教授は大に改良す可き必要に迫られて居ると思ふ。吾輩は日本唯一の最高女學校たる女子高等師範學校は確かに現在の宗教などに依頼せずとも充分力強さ修養を興へることが出来る處の設備が整つて居ると思ふ。

然るに此始末とは遺憾なこである。

▲そこで其改良方法にも種々あるだらうと思ふが先第一には目下の様な單純な修身科教授に附するに大に佛教の所謂莊嚴を以てすることである換言すれば繪畫、音樂、等の美術を應用して盛んに情意の直接陶冶を勉めなければならぬと思ふ。古偉人の書なども随分よいと思ふ現在でさへ兩陛下の肖像があるが之に加ふるに古偉人の肖像も大に利用す可きものだと思ふ。そして教授の間などに音樂を利用したならば、確かに効力があるに違ひなす。

▲尙又講堂の建築が現在のは頗る殺風景である斯んなことで何うして偉大な感化を與へることが出来る様か。窓なども色硝子を加へ模様など付けて大に飾らなければ駄目だと思ふ。

▲彼耶蘇教を見ても分ることだと思ふ。舊教は新教に較べると種々な莊嚴が多い、從つて能く信徒を統一して行くし其感化力も多いが新教の方は其云ふ事の少い丈に餘り自由過ぎて却つて感化力が少ない様である。

女子教育と人生觀

文學士 三輪田元道氏談

從來の女子教育は今日に於て種々改良を施すの必要あらん。殊に其根本問題として吾人は今日以後の女子は穩健なる人生觀を有する様修養せんことを望む。事少しく哲學めけども方今の女子一般に之なきが爲めに人類としては幸福なる生活を完ふする能はず。他人に對する交際も子女に對する態度も不都合なる事多し。然のみならず近來教育の

る女子の中には往々人生に對する疑惑煩悶の結果自ら死を決するものさへ生ずるに至りぬ。實に自殺狂亂煩悶等の續出するは人生々活に對する疑問の解決なきが爲めなり。多くの女子は高等なる教育を受けるに従ひ益自己の位置と待遇とに對して不平を起すは今日一般の状態なりとす。之れ果して人生觀ある女子の赴く可き所なるか。婦人の天職を理解し婦人の幸福が果して那邊に存するか覺悟するもの果して傾く可き所あるか。蓋し今日の婦人多くは婦人の天職を知らず。人生に對する一定の理解力の如き之有ること極めて稀なりとす。之れ今日に於ける女子教育が將に努力す可き處ならずや。人生觀の研究は女子自身に對しても安心立命の基礎となり。眞の幸福眞の慰藉が果して那邊に存するかを知らしむるものなるのみなら

す。之に接する他の人をして又各其所を得しめ其天分を完ふすることを得しむるを得可し。之を男子に對する關係より見るに不健全なる女子の人生觀は發して不平の聲となり、或は男女同權論となり或は女子の獨立生活論となりて盛んに男女相爭ふに至る之を一家の中に見るも男子に對する女子の位置は今日頗る不明にして女子の人格を沒却し其發展の餘裕を存せざるもの甚だ多し。次に子女に對する思想も人生觀の成立に連れて變化せざる可からず。從來世の父母の考ふる處に因れば子女は恰も兩親の爲めに目的を有するかの如き觀あり。従つて其生育後の方針等も一に兩親の獨斷に決するもの頗る多くして、其性質を察し趣好を探がして以て適當の業務に就かしむるが如き事なし。彼の長兒は之を學者とし次を軍人に末を外交

官たらしめて以て自己の虚榮心を満足せしめんとするものゝ如きは這般の好例なりと云ふ可し。而も今日に於ては教育ある母親程此の如き虚榮心をも有し子女の教育に獨斷を行ふと聞く。大なる誤りなりと云ふ可し。好きこそ物の上手なれと古人も云ひしが如く天才は人爲に依つて養ふ可からず。少くも中學卒業位迄は之を定むること難きものなり。然るに今日の父母は單に自己老後の利益と樂との爲に暴慢にも之を獨斷す誤れるも甚しと云ふ可し。世人が斯の如き父母を見て考ある人なるかの如く思へるも又大なる誤なりと云ふ可し。吾人は世の父母が一日も早く子女をして子女自身に目的を有せしむる様努めんことを望む。轉じて世の父母が子女を如何に取り扱ふかを見るに一家の中最も廣く最もよき家は重に客間若しくは居間

となり居りて充分なる日光と通風の便とを有するに反し子女の遊び暮す可き室は一家の中最もわたり悪く通風少く然も極めて殺風景なる陋屋を以て之に充てて子女の多くは此處に幽閉せられ會々來客われば更に靜肅ならんことを強ひらる畢竟厄介者として扱はれつゝあり。然も世人は此の如きを見て最もよき羨あるものと思惟す。子女は一家の寄生虫に非ず居候にもわらず家屋中に於ける最も貴重なる寶物にして其生育後の状態は以て其父母の人格を表はすものたることを悟らざる可からず。従つて余の見る所を以てすれば最もよき室を供し最もよき位置にあらしむるを要す。之れ云ふ可くして行はれざる所なるが故に余は務めて之を議論するものなり。人或は一個の益裁に最もよき位置を與へ一匹のカナリヤの爲めに快き場所を與ふる

を惜まざるに獨り人類の子を壓迫して以て良躰と認むるは酷なりと云ふ可し今日以後の主婦たるもの心せずして可ならんや次には婢僕に對する態度も又變化せざる可からず。今日の婢僕は朝は未明より夜は三更に至る迄一寸の余暇もなく自由もなく殆んど牛馬の如く使役せらるる之れ同胞を遇する所以にわらず。眞に婢僕を使ふの道にわらず。是は洋行歸りの人の常に嘆息する所なれど然りとて婦人の頭に彼等を愛護するの念なくば到底之が改善は望む可からず。之れを改良せんには少くも婢僕の人格を認め其發展の餘地を存せざる可からず。例へば一日の中一定の餘暇を與へ俸給は其の一部を貯金し殖利せしむる等の補助を與へて後來一家を建て得る様助けざる可からず。世には宗教に耽りて慈悲博愛を絶叫するもの可なり多けれども一二

の婢僕を酷遇して顧みざるものあるは果して如何なる理由なるや又近來動物虐待防止會とか動物愛護會とか云へるもの有志の間に起れる事誠に美事なりと云ふ可し。然れども人類虐待防止會は夫等より尙一層の急務にわらざるか。我同胞を其苦境より濟ふの考は眞に高尚なる婦人にわらざれば能はざるものなり、而して此の如き思想を有せしめんとせば女子をして大なる修養を積ましめ其人生觀を健全にし人類の靈性の那邊に存するかを發見せしめ古偉人と思想上に其消息を通せしむる様研磨せしめざる可からず。

之を要するに男女の位置關係子女に對する態度、婢僕取扱の方法等をして理想的なるものたらしめんとせば須らく高尚なる修養を積み虚榮に走らず浮華に失せず穩健なる人生觀を以て世に處する

の覺悟なかる可からず。近頃社界改良論頻りに起り種々なる目論見實行せらるれども其實績の思はしからざるは一に婦人の修養に缺くる所多ければなり。

盲目で聾で啞でありながら北米の米大學を卒業した、名高きヘレン・ケラー嬢と云ふは、觸覺がよく發達して居て、其指先を人の唇と咽喉とに當て、居れば、能く其人の話を聞くことが出来、美術品なども能く手探ぐりで彫刻の巧拙を批評すると云ふことである。何と云へば、それではないか。

女子の修養に就きて

下田 歌子

八

凡そ學問でも技藝でも、たい先生に習つたばかりで、打捨つて置いては何にも成りませぬ。その習つた事を忘れぬ様にお復習をして、そして猶其れが果して實地に行はれ得るか否かを考究し、若し甘くゆかぬのはどう云ふ譯であるか、どの點に違算があるかと云ふ事をよく調査し、そして其短きを足し、冗なるを省き、漸々學理を實地の應用に成功するやうにせねば成りませぬ。況んや、修身齊家の如きは、猶更理論ばかりではゆかぬ。善く常識に達し、機變の智に富み、しかも確乎不拔の精神を養ひ、所謂温嚴宜しきに適ふやうにやらねばならぬのですから、其れには實際實地に就きて、斯道に適する行ひをした人の傳や談話を聞

くことが、非常に爲になります。依て私が今一般人の勧めに依つて、世に公けにすることに致しました。「女子の修養」といふ書は、もとより始めより順序を立て、書き綴つたものではなくて、時々事に遇ひ、物に當つて、見るまゝ聞くまゝ、將た思ひ出づるまゝを談したのを、側らに居る門弟達が筆記したのを集めたのですから、其足らざる所補はまほしき事も多くありますが、足らずながらも、ありのまゝのものでありますから、寧ろ却て女子修養參考の一端になる所があるかも知れませぬ。

家庭教師

女子高等師範教授 中村 五 六

高貴又は有福の家庭にては教師を己が家に聘して其子女の教育を托するものが近來著るしく其數を

増した様であるが職業の種類と社會上の地位とによつては家長や主婦が自分で子女を教育すること出来ない事情もあるから是は一面から見れば確かに世の一進歩に違ない。此意味から論ずると家庭教師は家庭教育の擔任者である。處で家庭教育は元來訓練を主とし教授を従とす可きもの、學校教育は教授を主とし訓練を従とす可きものであるから家庭教師は自然訓練を主として働かなければならないものである。然るに今世上一般の所謂家庭教師なるものを見ると云ふと唯兒童が學校に於て學習する諸學科の復習又は豫習を施すに過ぎないで、訓練などは丸でそつちのけなのが比々皆然りと云ふ程である。是は頗る喜ばしからぬ現象と云はねばならぬ。子供は學校に於て衆人同時に教へらるゝよりは家庭に於て個人的に教へらる方が

覺え易いので自然學校の授業を重んぜざる傾きを
生ずると今一つは學校の教授が時々不行届な事が
あつても家庭教師直に之を補ひ置くが故に學校教

師は其好さ成績を己が教授の結果と誤認し會々不
成績な兒供でもあると特別な劣な兒か何かの様に
思ふ傾があることである。此弊は近來益盛んに

なつて來て教師は家庭の學習を宛にし兒童亦家庭
に於ける收得に依頼する様になつて來て居る。殊
に之れは家庭の善良なる家に多い様である。

従つて父兄も兒童の成績を善くし様と思つて特に
家庭教師を求め時に欠員でもあると落弟の不幸に
遇ふの恐れあるために百方奔走して人を求むると

云ふ風である。
眞の家庭教師即ち家長や主婦になり變つて家庭教

育を預かる處の家庭教師は學問の切賣りは第二と

して主としては其子供の行爲と習慣とを訓練す可
きものである。

従つて今日の家庭教師の様に僅か一二時間の出稽
古通ひ稽古では到底効あるものでない少くも兒
童の學校より歸り來る時刻より夕食后一二時間位

迄は起居を共にす可きものだらうと思ふ。吾人は
此意味に於ける家庭教師が成る可く多くの家庭殊
に富裕なる實業家の家庭に採用されんことを望む。

先きの學識切賣りの家庭教師の如きは生花點茶
乃至は音曲の師匠と一般寧ろ教育上の厄介者には
非ざるか。

次に尙進みて眞正なる家庭教師の占領す可き位置
は乳母や子守の指揮監督者たることである。現在

の有様で云ふと乳母や子守は母親の指揮權内に屬
して頓と家庭教師の下に行動せず従つて教育上

有害な取り扱ひ方を行つて居ても之を一且母親に注意し更に當事者に注意せしむる手數ありて直接之を支配するの權なきは頗る不都合な次第である。

幼児の眼

△生後五六日になるとラムプの様なキラ／＼する光線に注意するが、物體の見分けが出来るのは生後二週間を要する。

△そして暫くの間は正面の物より外見ることが出来るものである。

△殊に驚く可きは生後四五ヶ月の間は幼児の悉くが斜視であることである。

△眼球に屬する筋肉が充分發達して種々なる方向に眼を向けることが出来るのは三四年を要するを云ふ。

笑ひ方

文學士 下田次郎

人は笑ふ唯一の動物なりとは、さる學者の人間に下したる定義なり。笑はずとも人間たるに差支なけれど、孰れかといは、人は笑ふ方がよきなり、また實際一生笑はずに居れるものにあらず、然れども其笑ひ方にも様々あり、眞に可笑くて笑ふあり、可笑しくないのを無理に笑ふあり、或は顔の崩れるほどの大笑ひあり一寸した破顔微笑といふもあり、自然の笑ひ、不自然の笑ひ、善意の笑ひ、惡意の笑ひ、と仔細に笑ひの種類性質を研究すれば、中々笑ひなりとて、簡單無造作のものにあらず。

日本人はよく笑ふ人民なり、恐らく世界中一番よく笑ふ人民なり、そは可笑しくて笑ふかといふ

に、可笑しくて笑ふは勿論、可笑しくないのにも笑ひ、何ともないにも笑ふ、つまり笑ひは日本人の癖なり。その人に應對する有様を見るに、一言いふては笑ひ二言いふては笑ふ、殊に婦人の如きは、始めから仕舞まで殆んど笑ひ續けといふも過言にわらず、尤も追々親しくなれば、本來の自然に復して可笑しからねば笑はぬやうになるも、初對面同志などは甚だ贅澤にこの笑ひの交換を行ふなり。これは別に大した意味のあるにあらず、幼よりの見習ひが、癖となりたるなり。西洋人の日本に來りて不思議に思ふその一は、このよく日本人の笑ふことなり。この笑ひや甚だ無造作なるが如きも、自ら出し方ありて、其呼吸中々容易ならず、恰も洋人の日本語を學ぶに、その「てにをは」の用方に困ると一般なり、流石に日本人は生來の

慣れにて、甘く笑ふも、その意味は日本人だけに分るにて、他國人にはよく分らず、従て時にはその笑ひが人を馬鹿にして居るが如く取られて、相手の怒りを買ふことあり、例せば長者が眞面目に親切に、意見し居る最中に、意見さる、本人が笑ひ顔して居ることあり、この笑ひには赤面、納得改心、感謝等の意の籠れるなるも日本人の笑ひ方を知らざる者には、折角の意見を馬鹿にして居るとしか見へず、日本人が外國にありて往々しくじる所以の一なり、則ち笑ひにも程度ありて、日本人は笑ひ過ぎる方なれば、今少しく笑ひの儉約をなさざるべからず。

一體可笑しくないのに笑ふは、不自然なり、日本人の笑ひには、此不自然なるもの多し、一日注意して笑へる度毎に果して可笑しくて笑へるのか、

お勤めに笑へるかを考へ見れば、自ら此事明かなるべし、元來笑ひは天真爛漫、自然より出で、骨の折れず、愉快なるべき筈なるに、苦勞して作つてまでも笑ふべき必要何處にかある、それも少々ならば愛嬌とも言はるれど、日本人のは愛嬌を過ぎて、殆んど無意味に陥れるものなり。思慮あるものは、猥りに笑はず、よく笑ふものは、安ッばくして、眞目なし。婦人の往々輕々しく見ゆるは下らぬことによく笑ふからなり。日本人の西洋人と應對するを見るに、向ふは泰然として眞面目に構へ居るに反し、此方は分けなしに笑ふて掛るなり、如何にも媚び諛へるが如く見へて、甚だ品格を下げ見苦しきことあり。且可笑しくなきに笑ふより、底氣味悪く、笑ふても氣はゆるせずとて却て親密なる交際は結ばれざるなり。こうなれば

笑も禍にて、決して笑ふどころにわらず。笑ふも可なり、されど笑は信用の出来る笑ひ方をなすべし。日本人はよく笑ふといはゞ、唯笑ふ一方かといふに、左にわらず、笑ふべからざるに笑ふと共に、また笑ふべき所に笑はざるの癖あり、其自然に反するは即ち一なり。此方は容赦に過ぐるより來れるものにて、殊に婦人に多きやうなり。例へば會などありて、無邪氣に笑ふべき場合にも、魚の如く黙つて居るより、座が白けて、仕舞ひまで肩を凝らして居ることあり。則ち日本人は大に笑ふこともせず、又大に眞面目なることも能はずして、其中程の年中エンリク笑ひ居る人民也。日本ではお互故此事に氣付かざるも、外國に出て外人と交際するに及んで、日本人の笑ひ方には一風あり

改良を要すべきものあるを覺ゆるなり。今や春風
 駘蕩草木禽鳥皆笑ふの候、日本人の笑ひ方に就て
 一言し、其反省を求むる亦時を得たりといふべき
 か。

貞一の日記

(承前) (明治廿六年)
 (拔萃) (五月生男兒)

そのの母

三月廿八日 今日千葉より、筒井の伯父さん、御
 出になりしも、例の如く、はにかむ、
 道にて、余り親しくなき人に、貞チャンと呼ば
 れる時は、誠に澁りたる顔して、ジツト下を向
 いて、「イヤ〜」といふ。
 夕方、父に抱かれながら、上野のパーサンきた
 ないと、繰りかへしいふ、この日曜日に見たる
 乞食の老婆の事なり。また大きくなつたからつ

ま喰べやうといつて、足をつまだて、背伸びす、
 これは何日かお刺身のつまを、喰べやうとした
 時、これは大きくなつたら、喰べるものと、云
 ひさかせしを覺え居りしなり。

父の額を指して、オツムのボンボといふ、前
 も、自分の足の甲を、アンヨのオセナカ、又足
 の裏を、アンヨのボンボなどいへり。

三月卅一日 晝食後、朝來の風風きて、氣候も暖
 かなり、「ドツカヘユキマシヨ〜」と繰り返して
 せがむ儘に、父と電車にて日比谷公園に向ふ、
 昌平橋に至りて、船を見るや、「オフネ〜」とよ
 びて、「オフチガギツチラコ」と大きな聲で得意
 になりて唱ふ、神田橋に到りて、外濠線の電車
 を見るや、又大聲にて「御茶水電車」とよび、又
 「電車が鬼でござして居る」などいふ。公園に行

きても、中々遊ばうとはせず、始終電車のこと云い通しなり、四時帰宅、入浴、六時就寝。

四月一日 午後より、父母と弓町の女子美術學校の展覽會を見に行く、余り混雑して居る故か、

「オウチカヘロー」とくりかへす、途中にて車が来るからはじの方をお歩きといへば、ハジクナイココアブナイといふ。

四月三日 父母と稻毛の海氣館に行く、大好きな電車と汽車の乗りつけなれば大よろこびなり人を見ても、例の如く、いやがらず、館の女中

などにも愛想よく笑ふ、蓄音器をきゝて、「オバ一サンガ、ウタツテキル」といふ、蓄音機の聲が敏枯て聞こゆる故なり。

四月四日 海氣館に滞在、後の山、前の濱にて、終日、おもしろく遊ぶ。

この頃貞一のおかしき言葉は、

人デイツバクナイ(イツバイデナイ)オジヤマクナイ(オジヤマデナイ)ハジクナイ(ハシデナイ)イカレナイ(行カレナイ)

四月五日 朝飯後 汽車にて、千葉の筒井伯父さんの許に行く、汽車の時間余り短かき故、機嫌悪くもつと乗ろうといふ。伯父さんの所では

思ひしよりは、はにかまず、愛子さんと椽側で汽車ゴツコして歩きまわる。三時の汽車にて海氣館にかへる。

四月六日 朝九時何分かの瀛車にて歸京す。
四月七日 小原先生の許に行き、診察をうく、少しく腹工合わしくなり居れりと、散薬三日分頂

く、体量、一二三〇〇、〇、
食事は當分左の如くす。

朝パン、牛乳一〇〇瓦

晝粥 兎肉

ふやつ、牛乳一〇〇瓦 パン、

夕晝に全じ

野菜と味噌汁を廢すべしとの事なり。

四月九日 「千葉でおひる御飯たべた」といふ何で

喰へたといへば、お刺身でと答ふ、筒井で御馳

走になりし事を思ひ出し、なり。

また、「こゝ海氣館のちうち」などいふ、「おてん

きになつたら、海氣館へつれて頭戴」と頼む。

四月十日 湯屋より歸る時、傘をさして出て行く

人を見て、「カサヲサシテスメ〜」と旗をた

て、すゝめの節にて唱ふ。

四月十二日 「水トオシッコトツナグ」といつて溝

の中に小便す、一體「ツナグ」といふことが大好

にて何でも二ツ以上ある時は「コレトアレトツ
ナグ」といふ。

四月十八日 自分の裸体の寫真を見て、「きもの

きかへなくちやならん」といふ、自分きものを

きかへる時、裸体にて逃げ出す故、はやくきも

のきかへよと云はれる事を思ひ出し、ならん

「ナシチャナラン」は始めての言葉なり。

お向ふの正ちゃん、棒で蛙をいぢめて居るのを

母が、「ひどい事してはいけません」といひしに

さかざれば 貞一は泣き聲して「ひどいことし

ちやいけない〜」と止める、

またある時、母の見ぬ中に、鏡臺より水油の瓶

を取り出して、夫を頭から頭へかけて一面に、

べた〜に塗りつけ居たる所へ、母入り來れば

澄まし込んで、「テイチャン、ベッピンサンナツ

「タ」といつて居る。

四月十九日 海氣館が無闇に氣に入つたらしく、

何かにつけては思ひ出して「海氣館へ行きませ

う」といふお作さんとかりんさんとの咄しゝて

頂戴といふ。これは其處の女中の名なり。

その咄をすると、何時までも、もつと〜といふ。

「ナイッテバ」といふ言葉を感じて、近頃来て居る

名八さんに、しきりと、「ナイッテバ」を使つて

いはる。道を歩くに向ふより車來る時は遠方に

居ても「オジャマ〜」といつて、なか〜歩

かず、無理に歩かせ様とすると、「コラバカ」と

いふ。「コラ」といふ言葉も近頃使ひ出したるに

てこれも名八さんが少しでも氣に入らぬことを

する時に、よく「コラ」といつて、時には手を舉

げて打たうとするなり。

實驗上の育児

醫學博士 瀨川 昌 著

哺乳兒の兩便

▲母乳と牛乳とは大便が違ふ 母乳で育てる兒と、牛乳で育てる兒とは大便の性質が違ふので

す、母乳だと黄色味を帯びて居るが牛乳だと灰白

色で其上母乳の便より固く、分量が多く爾うして

臭氣が強い、斯くの如き相違を來すが其内には菓

子を食べたり、粥を食べたり、少しづつ食物を食

べるやうになると、母乳で育て、牛乳で育て

ゝも大人と同じ褐色の便となり、臭氣がある。

▲病氣の時の大便 前にも云ふ通り哺乳兒が病氣

にかゝれば直ぐ、大便が變化を來して、綠色にな

つたり、泡立つたり、ブツ／＼を交へたり、暗褐
 色となつたり、水飴のやうになつたり、粘液が交
 つたり、血が交つたりするやうになる、母乳はか
 りの兒でも、病氣になると大便に悪臭を帯び來り、
 時としては水の如き稀薄になり、或は母乳が少し
 も消化せず其儘排出こともある、牛乳で育てる兒
 の、大便が固く灰色になり、丁度粉糞を捏ねたや
 うになり、従つて容量も多いのは是腸の悪い證據
 で斯んな徴候があつたら捨て置いては宜けません
 ▲小便の注意 先づ大便は斯んな有様ですが次に
 小便は何んなものかと云ふに初生兒時代にお咄し
 仕た通り初めは生後二十四時間位放尿ぬものでも
 放初めれば随分澤山、度々放て十回から二十回位
 は珍らしくもない程屢々出ます、従つて襁褓を取
 換へても直ぐ濡れる、實に取換へるのに違なき程

十八
 ですから「マア何うして此兒は小用が斯んなに近
 いのだらう、冷へでもするのか夫れとも何處か悪
 くでもあるのか知らん」と親々に氣を揉ませる程
 近く放る、十分間か二十分間で襁褓の濡れること
 もあるけれど、斯ういふ場合は健康な兒でも多く
 有勝ちの事です、併し段々成長するに従つて今迄、
 少量宛回数が多かつたものが、次第に量が増えて
 回数が減するやうになる、夫れは實地哺乳兒を取
 扱へば自然お解りになる事だが、去ればとて一日
 に僅か二回か三回では宜しくない、斯く小便の遠
 くなるのは發病の原因と推斷してよくよく油斷せ
 ず哺乳兒の様子を注意し異狀があれば相當な手當
 を講じなければならぬ。

▲牛乳と小便の關係 哺乳兒の大小便に注意する
 事の必要は斯くの如く大切であるから經驗薄き母

親はくれくも忽にせざるやうに願ひたい、尙牛乳で育てる哺乳兒は小便の量が多いやうだと、御質問がある、夫は全く多いに相違ないので詰り母乳よりも餘計に飲むから従つて小便の量も増すので心配になる事ではありません

哺乳兒の保育法

▲大切な營養法 哺乳兒の成育状態は是迄お話し致した通りで体量の増え方や、生齒時期の困難睡眠の事、這ふ事又は歩行の事視官聽官の發育大小便の事等は一々能く記憶し、自分への哺乳兒の状態を之に引較べ、健康であるや否やを注意したら、其兒の發生を誤まる事なく完全に育てる事が出来やう、成育の健康状態に續いて今度哺乳兒の保育法に移ります、其の保育法中尤も大切なるは營養法で之れは愛兒の健康如何に重大の關係

ある事なれば親々は以下説明する事を充分に理解し、注意されるやうに仕たいものです。

▲西洋の母親 哺乳兒の營養物は何が第一必要であるかと云ふに、之れは申す迄も無く生母の乳汁に越した事はないのです、夫も或る事情のため其の乳汁を廢めなければならぬ場合の外は母乳が適當で、又安全で、容易く得られるから、何を擇ぶよりも生母の乳汁に限るのです、併し西洋では労働者が己れの職業のため母親が自身保育する事能はず、已むを得ず小兒保育所の如き所へ頼み、職業に就く前に小兒を其處へ預け、夕方歸る時再び小兒を引取つて歸る、夫れから上流社會にては母親が自身の用務の忙しき爲めとか或は自分の容貌の衰へるを憂ひて、生だ兒に親の乳汁を與へず乳母を置く者杯が多い、故に西洋の衛生家は之れ

を憂ひ、勞働社會の親は上流社會の親達をして自身哺乳せしむるやうにしたいと頻りに社會に向つて之を訴へて居る。

▲衛生家の憂ふ處 併し西洋では親子の情より夫婦の愛に厚く、父母は睦まじげに腕を組んで散歩する時其の子は跡からお伴のやうにブラ／＼趾いで歩いて居る、母子の情も斯くの如くで日本の様に母親が子を寵愛し乳汁を永く飲ませたりする事はないが、乳汁を吸はせぬと乳房の發達は次第に悪くなり、段々乳汁が出なくなる、之が子々孫々に遺傳すると全く乳房は不完全なる發育を遂げ、兒を生んでも、乳汁をもつて保育し得る事が出来ぬやうになる、既に西洋でも此れに對する統計もあるし漸々此の弊害の甚しき徴候が現はれて居る、夫れを彼地の衛生家は心痛して居るのです。

▲母親の身体 幸ひ日本には斯くの如き弊害は多少ない、凡て兒は生母が育てる事になつて居るのは誠に喜ぶべきことである、切爾うなると母乳の成分の善悪や分量の増減と云ふ事は大に注意すべき事で、直接哺乳兒の營養如何に關係を及ぼすのです之には母親の身体が充分強壯でなければならぬから乳汁に關する母親の攝生法から順を追つて述べよう。

産婦の食物と乳汁

▲適當に控へ目に食せよ 母乳の分量を不足なく充分出るやうにするには必ず母体を健康にしなければならぬ、母乳と母親の健康とは相伴ふものなれば、出産した婦人の攝生法は申す迄もなく大切な事であり、去れども古へより日本では餘り産婦の攝生を嚴重に仕過ぎ食物上の禁忌を矢

しく言ひ過ぎたものです、先づ産後一週間の食物は鹽に、白粥に、梅干位が通例で其外には何も與へない、産婦も夫れを甘んじて居つた、今日から考へると之では餘り嚴重に仕過ぎたので、斯く迄せずとも消化し易きもの即ち粥に味噌汁夫から、牛乳、豆腐、半片、小魚、脂濃くない刺身類、奈良漬のやうなものは、適當に、控へ目に食すれば決して差支へないのです、香の物なども習慣上容易に與へなかつたが消化し易きものなら之れも害にはなりません。

▲普通の食事 乳汁は食物を喰べる程分量が多く出るが、爾うかと云つて腹一杯食べる事は宜しくない、元來産婦は腹の減るもので、食物の要求は平生より多いけれど、此の場合には少しづつ、幾度にも食べるやうになさい、産後直ちに肉類や魚類

や玉子の如き蛋白質勝ちのものを多く攝取すれば自然乳汁が濃くなつて初生児のためにはならぬのです三四週間の後健康の母親なら追々と普通の食事をするが宜しい

▲俗に於てられる事 三四週間経つたなら其人の食へ慣れたものは選り嫌ひせんでも宜しいが尙注意して置きたいのは漢法醫の間に未だに唱えられて居る食物禁忌で民間に迄傳へられて居る、斯んな事は實驗上にも道理上にもない事です、特別の食物なら知らぬ事、普通其人々の食へ馴れたものなら別に害になるものを含んで居る筈もなし消化された營養分に異りのあり筈はないのです、夫れも消化機でも悪るければ不消化を起して、害になることもある、能く世人は「食物に中てられた」と云ふが、之れは胃腸で消化されずに却つて胃腸

を害するからである、故に産婦とても爾う民間や漢法醫の云ふ程嚴重に食物を禁忌せずとも食べ馴れたものは何を喰べても胃腸に害を及ばさぬ程度なれば差支へありません。

▲青い便 私(わたくし)の病院(びょういん)東京小兒科院(とうきょうせうじこけいわん)へ小兒(せうに)の患者(くわん)を連れて來る母親(はは)が其(その)の兒(こ)の容体(ようたい)を話(はな)される時に何(なん)うも兒(こ)が青(あ)い大便(だいべん)で困(こま)りますが、之(こ)れは多分(たぶん)私(わたくし)が青(あ)いものを食(た)べたから夫(そ)れで斯(か)ういふ青(あ)い便(べん)をするのでせう」と云(い)つて辯疏(いひわか)するやうに申(まを)さるゝ事が往々(わうわ)ありませう、成程(なるほど)斯(か)ういふ事柄(ことづから)は昔(むかし)から云(い)ふ事で、又(また)此(また)説(せつ)が世(よ)上に信用(しんよう)されて居(を)りますすが實際(じつ)際(さい)爾(そ)ういふ譯(わけ)のものであらうか、青(あ)い食物(しょくぶつ)を食(た)べ、其(その)成分(けいぶん)が乳汁(ちゅうじ)に分泌(ぶんびつ)されて小兒(せうじ)が青(あ)い便(べん)になるのである、其(その)解釋(かいしやく)をお話(はな)し仕(し)たいと思(おも)ひます、

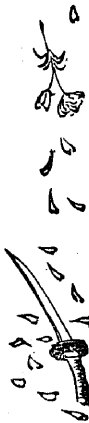
(つづく)

春の野邊



豊洲

霞(かすみ)こめたる山(やま)々の蝶(ちょう)の羽風(はな)にもえ初(はじ)し
小川(こがわ)に芹(せり)の清(きよ)ければ
紫句(むらさき)ふはなすみれ
いと興(きょう)ある眺(なが)め哉(や)
若菜(わがな)つみなん今日(けふ)の日(ひ)を
日(ひ)もうらゝかに風(かぜ)清(きよ)し。
散步(さんぷ)唱歌(たが)の節(ふし)高(たか)く
手(て)をとりかわし同胞(どうぱう)が
家(いへ)づとにとつみためし
香(か)りたつれて蝶(ちょう)舞(ま)へば
鳥(とり)も蔭(かげ)にいそぐなり
けふの遊(あそ)びを語(かた)りなん。



短歌

起 雲 選

(地) 林 静 子

はちらひて黙し、まゝに別れたる其夜の夢をくり返す身か

(人) 田 邊 春 洋

うらぶれや朝月淡き扉によりて牡丹崩る、音聞きにけり

鈴 村 仙 子

力なう幸にはぐれし譜をのぼせ緒季淋しう春くれんとす

岡 野 艶 子

花によせて思ひをみだす若人に何を悟れのゆふ鐘かそも

田 中 三 舟

静なる石の眠りをさますべくちるやうららの花さくら花

平 岩 學 洋

別れても厚き情はとこしへに結びつたへん光りある世に

田 邊 孝

姫君が袖かみしめて忍び音に泣くともきかん春のあめ哉

鈴 村 花 子

彩羽伸す孔雀の舞の午すぎで牡丹くつる、村をさのには

心から己がのぞみを欺きて小さきおもひを語るひとなき

玉 尾 晶

ゆきすりに笑まひもらせし少女子の趣ありな春の夜の月

姫君の丸窓ちかう移されて春をおこるか八重やまざくら
いそがしう小琴を走る春の譜と花ちり狂ふ人の世かそも

清 水 光 風

うらぶれのやせし身ゆるせ吉野山花の小蔭に一夜を許せ

中 川 龍

涙つゝる花の欄干夕かぜに雨ともならむくものかげ見る

飯 塚 曉 霞

水殿や夕日うらゝに花ゆれてよするさ、波匂ひあふる、

身は蝶と化り出て花にやすらひて九十の春の夢や結ばん

吉 野 絹 子

かくて世は頼みがたなや深見草真紅のおこり雨に崩れて

胸の扉はやみの思ひに閉されて花の光りに笑まむ術なく

中 村 鶴 聲

から鳥のながき彩羽に花ちりてはる闌にかぜぬくう吹く

しばらくは世の榮あつめ春されば黄金高照る山吹のまど

大 西 益 子

春の窓を東風おとづる、朝明や京の傾りに梅のせて來し

簪の子の追分節に胸くるふ磯のわびぬに朽ち果てん身か

吉 川 紅 花

うれひては鐘冷かう身に沁みて花ちる蔭にひとり千つむ

雲か將花かかすみのわが瞳かねをたよりに入るよしの山
白鳩や愛のつばさに花ふくみなつかし人のかなたの國へ



◎短歌募集

▲課題 隨意

▲切 毎月末日

▲發表 本誌上

▲賞品 三光に粗景を呈す

▲選評 眞宮起雲

▲投稿 用紙は隨意にて左記の處へ送らる可し

但添削及返稿を要せらるゝ方は往復はがき

又は切手封入にて送られたし

「伊勢國白子局内みどり短歌會」



俳句端書集

二十四

存外に乳母は老ひけり桃の宿
 桃の宿畫鶏にはたの音
 春雨や猫も一日ふくろ攻
 摘草や小溝に拾ふ落し櫛
 若草や手入の届く小庭先き
 花散るやベンチに残る竹の皮
 散る花や流るゝ川の静かなり
 朧夜や窓に洩れ聞くパイオリン
 花見舟下る隅田の夕景色
 飴賣の笛吹く塲所や桃の花
 朝貝にまさる小庭や梅の花
 登りつめた心の廣し春の山
 お出入の車夫も響めけり白牡丹
 春雨や隣の村は榛名講
 門の田やたつた一と聲初蛙
 陽炎や音して乾く壁の土
 花咲くや今日も朝から酒の客
 樂しげや遊び勞れて寝る胡蝶
 水を汲む桶や折々花のかけ
 尼一人千む垣や木蓮華
 薄眠き日永の旅や畑廻り
 摘草や輕き草履の草刈り
 高ふ舞ふ雲雀に餌し磯の波

東京

東京

長野

埼玉

出雲

横濱

大阪

信州

常陸

辰子

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

子

綾

舟

月

鳥

鳥

鳥

杉

梅

山

園

齋

別れ霜不二もありく見ゆる朝
 人の氣も浮かる、日なり春の風
 筆持て居眠る人や日の永き
 どちらへも風に馴染みて糸柳
 野に山に目うつりのする春日かな
 彼岸會や佛壇からも野の匂ひ
 今日も又誘ひ出されて春日和
 乗り捨てし汀の舟や夏の雲
 雲見えて今日も雨なき暑さかな
 初雷や雲の切間を星一とつ
 夕立や鬼の様なる雲の出る

三光

追加

天、芽柳や水に崩しれ川普請
 地、遠足や陽炎もゆる野のあたり
 人、その奥に赤き鳥居や葉の櫻



無一菴奇零

大坂	高崎	相模	武州	下總	遠州	川越	東京	長野
きよ	梅の舎	全	全	全	全	野	春	雲
女	さだ子	笑	山	泉	水	鳥	綾	舟

うんどう會

鶴齡

老いたる冬は去りぬ、うら若き春は来りぬ、ゆたかなる日影あみ
 つ、萌え出るわか草のつみなき幼な兒なつかしみ一日某附屬幼稚
 園に訪れぬ、廣やかなる遊びの庭春風のどかに吹きわたたりて今盛
 りなる梅が香清し、小蝶形に結ばれたる五色のリホンの赤き袴つ
 けたる人の影おひつ、彼方此方飛びちがうもつつくしく、水兵の
 服つけたるはかなたの砂場に打ち群れて手に手に小さき木製の鍬
 おつとり今し築城の練習。此方のベンチによりかゝれるは咲き匂
 ふ梅花を櫻に見立て、や見よ花見よとうち喜ぶ、一ノ組の幼兒な
 るべし七ツ八ツ許りなるが繋り合ふ常磐木の下に集ふよと見るま
 に一人の女兒の拍子とるにまかせ歌ひ出だせる、

小さき我等によき事を教へ給ひし師の悪

ながく遠く忘るまじ大きくなりて後までも

時に彼方の入口に濃き紫の袴見えて廿をば二ツ三ツ超えたらんと
 思はるゝ人の出で來給ふや「アラ先生」と目さとき一兒の駈け出
 すや聞まほしと思はれし二の歌はさしをかれ、雞鷄の餌をまく少
 女に走るが如く衆兒我も我もと群り行きぬ保母の君なるべし兒等
 に取りまかれつ、

オ、皆さん元氣で、今日はい、お天氣ですれ先生の御恩の歌大
 そう丈手になりましたねモー、いくつ眠ると小學校へ御出るやう
 になるでせう

「先生！モー二十許りねるとでせう？」

「ソーヨおうちではネおねエ様が女學校を御卒業私は幼稚園を卒業、お姉様の方では送別會をするんですッて」

「送別會で何？」

と口まめらしき赤のリホンの小女は問ひつ、保姆の君は笑み給へり好機會待ち得たる面持して、

「送別會といふのは長くお友達だつた方がお別れのときにする會です、一ノ組でもしませうか、もうすぐ御別れになりますから、随分長いこと一緒に遊びましたね、」

かくて送別を意味せる運動會の相談。小さき幼児等が腦裡より繰り出されたる思考面白し。

土曜日とはなりぬ天氣快晴、如何なる會の催さるらんと好奇心にかられつ再び同幼稚園を訪ふ、開會は午前一時と聞きしに九時頃已に父兄の來るあり、小さき今日の主人公だち得意顔に彼方此方駆けまはりつ、客人を案内する愛らし主も嬉しげなり客もうれしげなり。

練習生と覺ゆしきに案内せられて例の保育室に入る入口の壁には「子どもてんらん會」のはりたしあり愛らしや幼児の思考にや室の中央の花瓶には梅の古木花まさに盛りなるを挿したり見えよく配置せられたる幼児の机には青きテーブル掛かけわたして小さき手どもに作りなされたるうるはしの製作品扱ては愛らしの玩具など幼稚園は何もかも愛らし、

時たつまい、來客父兄の數は増しぬ展覽會は大入り、小さき説明者は大よるこびなり折しも、

矢がすりの筒袖羽織も着物も等しきにかシミヤのふび茶袴うがち

たる少女人込の中をかきめぐりつ、

オチエサマ！オチエサマ！何處にいらすつてア、こゝに？、私の縫取り見て下すつて？」

「澤山あるからどれがお前のかわかりませんでしたの、ア、それで、すか綺麗に縫えましたね」オ、アルプムも出來てますね、マア皆よくかいて居ますこと、美代ちゃんのは？」

「アタクシのネこれ！蝶々が變にかけたの、」

と笑ふ、傍に立てりし白髮の一人、洋服つけたる凛々しげなる小兒の頭なでつ、

「入園した時には何もわからず泣いてばかり居たのに大人しうはなつたし、こんなにマアいろんな事を覚えて……」

と感謝の情にたへぬらし、十時は來りぬ小さきベルは再び鳴りぬ小さき主人公達まづ入場、下座なる腰掛に着席、保姆の君は展覽會場集まれる父兄其他に簡單にして心深き一應の挨拶來會の好意を謝して會場に案内せらるおのれも亦來客の一人として、快よく入場を許さる、五間に八間の遊嬉室は旗花さては何かどうつくしう飾られたり幼児の手になりしと覺ゆ、室の上坐壁に掲げられたる額中のフレイベル先生、今日わきて笑みませるやうに拜まるピアノのマーチに足並そろへて入り來る二の組三の組の小さき客人達、保姆及び小さき主だちに愛らし會釋して設けの席に看く招きに應じて來りたる本校生徒さては附園の人々等、來賓總て百七八十名、ピアノの合圖に一同起立三浦とかいふ、男の子總代として挨拶

「皆サンよくいらしやいました」

ときりきりとしまりたる口もとより唯一言！簡單にして力ある聲
子供ながら男々し、

傍へなるオルガン物靜かにひやくや頰紅に丈高きをのこ子梅の花
の唱歌獨唱、夥しき來賓あるにも怖ぢたる景色なく元氣よく歌ひ
終れり次いで女兒一同の遊嬉鎮と、雲雀。雲雀の歌の末「うちのか
あさんにおみやにしませう」の句、並み居ませる母君達如何に聞
きけむ右終りて男兒の体操活潑にて愉快なり三の組の小さき人達
稍無事に苦しみ給はずと見ゆるに保姆の君「こなびは客人方を
を聞きまつらむとて一ツ二ツ此の君達の飛び入り唱歌あり、次い
で男女兒手を携へてプロネード。汽車の歌うたひつゝ、足並正しく
ピアノの音ニ合ひて小さき兵士見る心地す一列となりし行は席に
はつかで室外に出て行く。客人のみとなり殘されつゝ、こたびは何
ならむと壁上のアログラムのそくに「おはなし」とあり二三の小さ
き辯士の愛らしく面白き話終るや室外に足踏の音勇ましく「前へ
進め」の號令と共に聯隊旗捧げ持てる二人の小大將につやく二列
の兵士勇まし小兵といふて木製の鐵砲肩にして進軍、室の
中央にて二隊にわかれ敵味方、よろしき所に陣をとる戦闘準備は
間もなく成りぬ

氣ヲ付ケ。右ヘナラヘ。番號。ネラヘ。サテ。ドドンドンドン
ドンノ〜〜〜

觀戰の老幼來客歡呼湧くが如し「休戰！」の號令の下に兩軍鳴を靜
め、敵味方相和する始めの如く再び二列となりて喝采のうちに退
出。

戰は終りぬ戰場物靜かにしづまりぬるとき赤十字と小旗手にせる

二十餘名の小さき看護婦の君達列亂さすしとやかに入り來り室の
中央に圓形に列ぶ砲筒の響遠さかるあとはは虫も聲たてず倒れし
人の顔色は野邊の草葉にさも似たり。

舉動しづかに歌しめやかに白きハンカチ取り出してまくや縞帶白
妙の清き心のいつくしさよ、先きの老人嬉しさに泣くゆり、

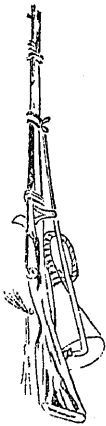
戰爭は終りぬ看護の實はあがりぬ觀客坐る凱旋の祝賀を聯想する
の時太鼓のひびき笛の音さては拍子木鈴、ラツパ 隊伍正しく進み
來る樂隊行列。女兒も男兒も小旗持ちつ廣瀬中佐の 歌節勇まし。
次いで女兒數名紙折の三方に何物をか入れたるを捧げ來る、

「これは皆さまに一ツ宛とって戴きたくてみんなで摺みました
から」

年上なる女兒なるべし挨拶終りたる後一人一人に分ち與ふるを見
れば七色の色紙もて摺みなせる花蝶其他。開かば一葉の紙片なめ
れと幼き人の心こめたる。贈られつる人の心や如何に

贈物配附の間樂隊行列の君達着席、一保姆の奏樂に會場物靜かに
なりし時ピアノの合圖に一同起立、君が代 老幼、親子、師弟、主客、
心よりの萬歳三唱、御國長久の繁榮を祈りて解散、

愉快なりし運動會！愛らしの送別會や、



悶えのお藥

鈍 子

煩悶といふと、どこやら詩的のやうにもきこえ、また或意味からは哲學や宗教の卵でも産んだやうにも聞えるのでありますが、其實は煩惱といふお目出たからぬ迷、心の糸がこぐらかつて、解くとかれずア、じれつたいと云ふのが抑の正体でございませう。お講義流に申しまゝと心力の統一が出来ず、理性の光明はうすらぎで、意志の力はあるやなしや、多角的なる感情のみ、蜘蛛の手をのばしたようにはびこつて居る情態、かく數學的に打算して見ると、倫理の範式にも信仰の定理にも、とてもあてはまらぬもの、所謂これ箸にも棒にもかゝらぬ代物、垣のそとにながて犬に喰はさうとしても、斑にも白にもお氣に入らぬでございませ

う。

二十八

さりながら人の心は幾何學の線のやうに、一々故事來歴をたどつて現はれて居るものにあらず、風邪を引いて仕舞つた子を、御前はかあさんの云ふことをきかぬからだよと、意地めて見たからとて、咳もうすらがす熱もさめまじ、なだめすかして、よい御藥をのますより外にいたしかたないではありませぬか。宗教者といふお醫者様、さても自分勝手のことのみ、云はるゝものかな。それが迷だ迷を去れよ、夢はサツサと猿に喰はせて、冷たい水で顔洗へかすとすましこんで居るかたもあり、天のおとつさんは御救ひくだする、とやかくと思はずにお祈禱なさいとひたすらにすゝむるもございませぬ。頓悟とやらが出来る位ならこうしては居りませぬ、このくるしさは祈禱どころの話ですか

と、病人がはからは云ひたくなるでございませう。科學でも哲學でもまた宗教でも、これを藥としてよくなりたいたいものと、手をのばした時はもはや病人ではないのであります。情けなきは人間の身。そこまで心を運ぶことができずに悶え苦しんで居るのです。そこが凡夫の淺間しいところ、一体どうしたらよいでせう、この厄介ものをサ。熟練なる母が、だつ子を取扱ふやうに、心機を繰轉せしむる因縁をつくるより外いたしかたありません。名醫と云はるゝ宗教者にはこの種の善巧方便中々に自在を極めて居るかたがあるさうでございませうが、書物の中から顔をだして居る道學先生とか云ふ救醫者は、病人に衛生談の押賣をするやうなもの、極めて不親切な不忠實なしかたと申さなくてはなりません。つまり自分が順境には

かり居つて、人間と云ふものはどれだけ弱いものか、迷と云ふものはどれほど苦しいものか、芋の煮たはども御存知ないからでございませう、經驗にとめる保姆は兒童の心理を研究するばかりでなく自分の幼き時の心的情態に遡りて比較研究をばじむるとのこと、個人や社會を教育するものも、自ら蒼龍の窟に下りて、珠をさぐる決心がなくてはならぬと思ひます。悶えのお藥として、鈍子の印籠に貯へて居るのは色々ございませう。もとより鈍子風情の持つて居るもの、世にありふれたる萬金丹のたぐひには相異ありませぬ。唯醫者のくるまでのしのぎとして、同病のかたもあらばとの合せつかいであります。大別して能動と受動との二つとしてゐます。受動といふのは外から動かされて悶えのうすらぐ

ので、いつもそんなものがあれば結好ですが、余りあてにならぬしかたでございませう。しかし幸にして受動的に煩悶を救はるゝことが出来る、他方方便まことにありがたいではありませぬか。自分の畏敬して居る人とか、自分の信頼して居る人とか、または自分の深く友愛の情をさげして居る人とかの言葉は、ほめらるゝはもとより叱られてもうれしく嘲られてもうち笑まるゝものでございませう。

宗教で云ひますと爲人重法とか云ふのはこれにて、ございませう。子どもがハツかさんの一とことにて、意味もなく泣きやんでニッコリすることがあるのは、この種類の萌芽でないでせうか。偉人の感化を要求するはこの爲でございませう。されど受動と云ふものは、子どものもののでありませう、益裁的

のものであります。廣野の一本松となりて浮世の荒い風とたゝかひ人生の酸味を實地になめ試むるには、そんな人のことをあてにして居られますまい。能動は是に於て必要となるのです。されどこれは一つの確信がなくてはいけません。さもないと藥だか毒だかわからぬ事になつて仕舞ひませう。

確信といふのは、この悶が不理窟なものである、だが急には直らぬ、何とかまぎらして見やう、天神様のお歌ぢやないがなさばなりなんだのではあるが、一寸と心機が工合が悪い、これを方便にして動かして調子を合はしたいものだとの希望であるのであります。その方法は色々ありませうか、煩悶そのものを主觀的に見て戦ふて忘れる工夫をするのと、それを客觀的に見て批評的に考へ頭腦

を冷静にするのと、他より好因縁をつくるのとこの三種あるのです。鈍子のがらにもなき理窟をならぶるよりは、例の身の上の愚痴ものがたりすこし云つて見ませうか。

世にホームムシツク位不理窟なものはないのです。アメリカカくんたりまで来る氣になりて多少の障害を切りぬけてやつて來てゐながら、そのふる里が逃げてなくなるものゝやうに、また自分は浦島カリツプ、ヴァン、ウキンクルにでもなつたやうに、同じ地球の表面にゐながら、星界へでも島ながしになつた心、詩人の枯腸を肥すにはよいかしらぬが、あつて益なくなければ結構、まあいやな病氣でございます。鈍子はじめはこの悶えと戦ひました。わざとはげしき労働をして見ましたり、或は果報は寝てまてと瀕りに夢を求めて見たこともあ

り、むしろ煩悶に順應して見んかと故郷の寫眞をところせまきまでならべ、或は將來の希望寧ろ空想に似たることをひとり書いて見たり、或は論理的に責めて見たり、文學的に同情をませて見たり讚歎したり、罵倒したり、かくして漸くその日その夜を凌いだこともございます。

また或時は批評的に自分の心を解剖して見、可愛ゆくもあり、ふびんにもあり、可笑しくもあり憎らしくもあり、これをめかたにかけ、これを切り盛りして自らなぐさめたこともあり、怒るときは鏡に對して顔面筋肉の横つまり縦のびせることを見、自ら吹きいだしたることもあり、悲む時はその情をそのまゝ筆にして、次の朝讀んで見て破つて仕舞つたこともあり、千狀萬態の妄想を超然として高みの見物したこともさへあり、これもまた一

ほうほう
方法として弱き鈍子にはよき羨ぎかたでございま
した。

どうしたらこの悶えがなくなるだらうと、貯金
を企てたこともあり、露の雫も歸國の費用ぞと思
へば、淺はかなれど楽しみにて、流石は拜金國のさ
すらひびと、銀貨を集めては金貨に換へ、夢想兵
衛が夢みし貪欲國の亡靈のようなそぶりしたこと
もございます。この國の畫はがき數百枚を蒐集し
て、歸朝の折は教へ子だちにこれをかたり草にせ
んとわざわざあるさし時もあり 童話の色々を集め
て見たり、三十男が玩具のいろいろを携へて慈善
市から歸りし時もありません。新聞雜誌の切りぬ
きをこしらつて見、ポンチ畫を集めて見、寫眞の
いろいろを買ふて見、みなこれ心の悶えを去らふ
との忘れ草とせるまで、ございました。

またある時はキャンデーの一と袋をポケットに
し、ほど近き野邊にねころびて、藍より青き大空
に白雲のかけるを見ながら、子どものやうにその
甘さを賞玩したこともあり、當時思へらく、酒に
耽り遊蕩にふけるものその動機は吾と同じきもの
にあらざるか、まぎらさうとした心が、ついにま
ぎらされて仕舞ふもの、思へば憐むべきものであ
るなど、世の人の爪弾するものにまで同情の涙を
そそぎたることもございます。

公園のそいゝるあるき、濱邊の長驅、自働車の韋駄
天行、博物館の半日、日曜の圖書館などみな吾惡
病を療治せんとしてつくりし因縁であつたのです。
日本文字が戀しくてたまらず、座右の蟹文字が憎
らしくてたまらず、さりとてお經文や祖訓をよむ
ほどの道念にもつかまへつくことができず、電車に

のりて山家集をさぐりにでかけ、あるは白晝ベツ
 ドの中にもぐりこみて二ヶ月ばかり先の古雜誌に
 よみふけりたることもありました。

他動的のものとしては、ほど近きに恩師の一人い
 らせられしたため、折々は叱られにでかけ、船つく
 ごとに必ず三通五通は手にする故郷の誰れかれの
 玉章、あるはこの國に於ける友どちのたよりなど、
 まことによき薬でありました。

他動はむしろ苦の元となること多く、恩師は今
 この國を去り歐洲を巡歴して居るため、ホームシ
 ャクに加へて、まだ一ツ、想は夜なく、大西洋を
 わたりゆきまだ見ぬ山川にさまようこともござい
 ます。船つきたりと新聞にあれど郵便の來るは二
 三日或は四五日のあとのこと、その間のくるしや、
 いつもはなつかしき配達人の、空手にしてわが門

をすぎゆくを見れば、哀れその髻つらのにくらし
 く昔話ではないが、あの馬車の馬よ、そのま、
 斃れよかして咀ふことさへありし、他動は妙薬で
 はありませぬ。

書きつらねて見ましたが、つまり妄想のわざくれ、
 神の愛にすがり得ず、佛の慈悲に同化し得ず、科
 學のたのしみも忘れ哲學の高樓を下りて、わがま
 なる遊び三昧、勝手にくるしむがよいさと云ふ
 人あらば理窟にはまけますがこの恨、太平洋の波
 と共に盡きませぬぞ。

今の世の道學先生は云ふまでもなく、情うるはし
 かるべき宗教者愛濃かにして方便自在なるべき善
 の教育者まで、人を責むる割り合に人をなぐさめ
 てくれず、鞭には力をこめて巧みに打てども、情
 けの手柔らかになでさすりてくる、方はすくな

く、心弱こころよわきものは自暴じぼうとなり自棄じきとなるをも願がねみざる傾かたむきがあるではありませぬか。

醫者いしやのくるまでの悶えもだえのおくすり、病人びやうにんの實驗談じつげんだんとして書いて見たみまで、ございます。ブツても死しなぬと云ふ頑健くわんけんの古物ふるものや、切つても血ちが出ぬと云ふせきとら冷じどあうひと御話ごばなし相手あひてではありませぬ。況んいかにや頓腹とんぶくに百病ひやくびやうを治すと云ふ者もの耆婆しや扁鵲へんじやくのエラ物ものは論外ろんぐわいでございます。

(了)

端午たんまの茅卷ちまきにかへて、こしらへ昔むかしの菓子かし

石井泰次郎

蕨餅くしらへかたの拵方しな

うどんの粉こな 一升いちしやう 三百匁しひひやく 白砂糖しろざとう 一斤いちじん

百六十匁ひやくろくじゆ 古酒ふるさけ 小盃こしづちに五杯ごはい

右みぎの分量ぶんりやうにて、鉢はちの中なかにて能よくませ合せあはせ、すり鉢すりばち

にうつしてすりて、一つにとりて、蒸籠せいろうま又は、こしきに入れてむす(布巾ふきんを敷して入いるべし)取上とりあげてから、さまして後に切きてつかふなり、

卷餅まきもちの拵方しな

小麦こむぎの粉こなに、白砂糖しろざとうを合せあわせて、水みづを加くわへてどろりとなる程ほどに、鉢はちの中なかにてこねて、玉子たまご焼やきの鍋なべを火ひにかけ、胡麻ごまの油あぶらを入れて、鍋なべをあぶりて油あぶらをしみさせて、鍋なべの油あぶらを他たの器うつわにわけて、其そのあとへ、あつさ二分にぶんぐらゐに流ながし入れて焼やき、へらにてはがし、うらかへして、一寸いちゆゑんあぶりて、取とりあげ、又また一枚いちまいを流ながし入れてやいて、へらにて鍋なべのはだをおこして其そのまゝに置おきて、黒くろごまをいりたるをばらくと振ふかけて、前まへの焼やきたる物もののこげぬ方ほうを其そのごまの方ほうにして合せあはせて、鍋なべより取上とり取とり、切方きりほうしてよし、巻まく時は、取とりあげて直ただにあたゝかなるうちに

まくべし、

御所餅の拵方

米の粉を四分四十匁に、餅米の粉六分六十匁を金ぶるひにて能くふるひて、其中へ薯蕷の皮をむき、て、わさびおろし金にてすりおろしたるを、入れて、粉と合はせて粉の柔らかに手につかずして牛皮もちの柔らかさ程になるを、丸くちいさく平たくとりて、味噌汁にてざつと煮て、取上て器にもりて、砂糖の汁をかけて出すべし、砂糖百匁に一合の割にて鍋に入れ煮と加して、ざつととけたるを絹篩にてこして、再び鍋に入れて煮てつかふべし

寒晒もち拵方

餅米の粉、寒晒に製したるを、鉢の中にてくださて、能く粉にして、薬研にて粉にする、やげん無

き所にては搦盆の中にて粉にしてもよし 金ぶるひにて篩て、深き鉢に入れて、熱湯を加へ、箸にてかきまわし、次に手にて能くこね合せて、つきたる餅のやうになるを、小丸にちぎりて、鍋に湯をたて、其中に一つづゝだんくに入れて煮れば、次第に浮上るを、取上て豆の粉と砂糖と合したる器に入れてくるみて、皿にもりて出すべし、豆の粉の所を小豆粉にてつくりたるわんにしてもよし、

さゞれ涙

よする紋をば青柳の

影の糸して

織るかたとぞ見る

(貴 之)

婦人と親族法

太田英隆

第四節 離婚

全体婚姻と云ふのは男女が共同生活の所存結合でありまして、その目的上と夫婦は仲よく暮さねばなりません。夫婦が借老を契り連理を誓ひましても、若し其間に風波が起りましたなら、その極或は姦通亂倫の弊風を醸出するやうなことがないとも限りません。それでありますから一旦結んだ婚姻でありましても、之れを解除するの道を與へませんければ、仲の悪い夫婦が面白くなく暮さねばならんと云ふやうな事が出来ず。離婚法の制定亦實に已むを得ざるものと云はなければなりません。

そんなら離婚とはどんなものかと申しますと、

夫婦の相談か又は法律に定めてある原因に基く婚姻の解除であります。それで離婚には、協議上の離婚と裁判上の離婚との區別のあるものであります。

第一款 協議上の離婚

協議上の離婚と云ふのは、夫婦双方の承諾に依り婚姻関係を解除することでありますから、配偶者双方の意思に基くことを必要とします。若し配偶者の双方又は一方に於きまして、意思が缺けてゐるとか若くは意思に瑕疵のあつたときは、その離婚は無効と爲り又は取消することが出来ず。こうしまして二十五歳に達せない夫婦が協議上の離婚をしますのには法律に定めてあるもの、同意を得ねばなりません。つまり協議上の離婚には次の三個の條件が入ることを知らねばなりません。

第一 夫婦の合意

協議上の離婚は夫婦の意思が一致したに基かねばならぬことは今申しましたから茲には省略します。

第二、法律に定めたる者の同意

この條件を必要とするは、二十五歳に達せざる者の協議離婚に限りまして、二十五歳以上の者は必要でないことも申上げた通りでありますその理由は婚姻に付きて同意を爲すべき権利を有する者は又離婚の場合にも全じく同意を爲すの権利を有するのであります。

第三 届出

法律は協議離婚は許しますが、その意思を保障する爲め及び離婚に因る當事者の身分變更を他人に知らしむる必要あるか爲め、婚姻しましたとき

と同じ理に基いて戸籍吏に届出るのであります若し届出でないと夫婦別れを爲したなど、云つてもそれは全然無効であります。

第二款 裁判上の離婚

夫婦が離婚する理由があつても協議ではとても離婚することが出来ないときは、裁判所に頼んで離婚することが出来ます。之れを強制離婚とも申します。併し之れには、相當の理由がなくてはなりません。今その理由を挙げますと左の如くであります。

第一項 離婚の原因

第一 重婚

全体我法律で夫婦は一夫一婦たるべき性質のものでありまして、彼のある國ある宗教の如く、一夫多妻とか多夫多妻とか云ふやうなことは決して出

來ないのであります。それで一旦婚姻した者が、その儘又他に重ねて婚姻するやうなときは、離婚の原因となるばかりでなく、刑法上の罪人とならねばなりません。

第二 妻の姦通

夫婦は相互に貞操を守り誠實でなければならぬのに、妻が他の男と通ずるは婚姻より生ずる重大なる義務に背くものでありますから、離婚の原因としたのは當然であります。道徳上から申しますれば、姦通は配偶者の執れが爲しても同じく婚姻より生ずる義務の違背でありますから、夫婦の間に差異を設ける理由はありませんが、我國の習慣としては、夫は妻の外に妾を蓄ふるを許すのみならず、男は他の女(有夫者を除し)と通じても罰しないのであります。其當否の如きは立法論であ

つて茲に述べる必要はありませぬ。

第三 姦淫罪に因る夫の處刑

之れは素人方には少し解りかねませうが、一言にして申しますれば、夫が有夫の女と姦通して罰せられ、又は他の女を強姦して刑を受け、或は十二歳に満たない女に對し猥褻の所行を爲して處せられたる、場合に於きましては、妻は之れを理由として離婚を求むることを得るのであります。

第四 偽造、賄賂、猥褻、窃盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物に關する罪、又は官の封印を破毀して其物件を窃取し、又は毀壞する等の犯罪、又は賭場を開張して利益を圖る犯罪に因る輕罪以上の處刑若くはこの他の犯罪に因る重禁錮三年以上の處刑

之れは別に説明せなくても文字に因つて察せられ

ます。

第五 配偶者の同居に堪へざる虐待又は重大なる

侮辱

配偶者の虐待又は侮辱を離婚の原因としまたは、夫婦が相保護すべき義務に違背し婚姻の目的を達することの出来ないのに由ります、虐待は肉体に痛苦を興へる所有のことで、侮辱は精神上に痛苦を興へる所爲であります。そうしまして、そんなら如何なる虐待又は如何なる侮辱を以て離婚の原因となすかは、全く事實問題であります、裁判官の判断に任かすより外はありませぬ。

第六、悪意の遺棄

夫婦は互に扶養の義務、同居の義務があります、それに其一方が他の一方を遺棄するが如きは義務に背くものでありまして、之れを離婚の原因とす

るは正當であります。唯その時は遺棄したる者に悪意あることを要します。

第七 配偶者の直系尊属の虐待又は重大なる侮辱

第八、自己の直系尊属に對する配偶者の虐待又は

重大なる侮辱、

第九、配偶者の生死三年以上に亘る不明

第十、婿養子の離縁又は家女と婚姻を爲したる養

子の離縁若くは其縁組の取消

右第七より第九までは讀んで字の如く殊更説明する必要を見ませんから省略することにししました。



桑港より (三月廿一日夜)

四十

春とは云へと桑港の今日この頃は、毎日の雨にて、まことに寒く候。御かはりもあらせられず候や、御伺申上候。この真一様、いまもうすもの一枚にて徳利をいじり居り候、私はガストーブのそばでも一寸と寒くて、外套をひつかけて居るのに、寒くありませぬかと云へばトボケた顔をして足をふみのばし、お盆にのせたビスケットは今にもチャブ臺から落ひれさうに候。

雑誌毎度ありがたく候、時流の外に超然として穩當な態度、學術的のもの多きと、すべてが學校先生的にまじめなるとは、特色に候、ナماغサ坊主の仲間入り、何だかキマリが悪いやうに候。(中略)

老師は十二日桑港出發、シカゴ、紐育を經、

二十四日の船にてロンドンにゆき、獨、佛などの漫遊を終へて印度に再遊し、本年中に歸朝の筈に候、私は當港にとゞまりて佛教會のことを輔佐し、傍らすきなことを學ぶ候。からだはどうも丈夫でなくて金もうけ覺束なく候。中村先生へもよろしく、昨夜同先生と職員室にて御話せる夢を見申候。乍末筆奥様へよろしく御願申上候。

眞宮さんのうたはまことにむつかしさうたにて候よ、私は竹柏園流の体をすきにて候、つまり景物多からずして、眞情のみすらくとしらべとゞりりなきをすくにて候、この頃の日課は、詩文と文典と修辭學にて候。早々

亞米利加より再び

(三月廿二日午後)

昨夜書いたのを投函せぬうちに、今朝御玉章に接

し申候、梅花一輪食卓にはんべりてこの一碗の珈琲まことに甘露よと味ひ申候。細々との御たよりうれしくてくりかへしく拜見いたし候。

私は當分この家に居る者に候。主人死后マダムの妹同居することになり、どうしてもボーイが一人入用とのこと、新たな苦境を探る勇氣もなき折から、しばらくひそむことゝいたし候。

中々お轉婆なるミツスにて、今も御てがみの上封をながめ、千崎さん、折々帽子を二つかぶりますネーとのこと、MrとRevとどつちか一つにて事足るとの意にて候はん。そんなことはどうでもよい、早く息子さんを養ひなさいと云ふてやり申候、息子さんとは猫のことに候、traxとBoyとの二匹を寵愛して、食後はいつもそれを相手に半時間をくらすことに候、マダムは當分のうち悲哀に沈むことな

らん。この頃はなぐさめを佛教にとらんとして、色々のことを尋ね候まゝ、覺束なき言葉にてある時は二三分の説教を試むる時も有之候。しかし幼時より染みこみし個人主義といふ毒氣は、中々ぬけさうもなく候。この國のレデーなるもの、大乘佛教などのわかる器にあらざと存候、偽善の道具や、自分の玩弄物として宗教をいぢり居るが多くの候、私このまゝ直言せるに、ヤツキとなりて辨護せるは、饒舌なるミツスに候。しかしこの國のレデーの、老いてますゝ元氣よく、浮世の荒浪と奮闘するは、勇ましく見うけられ申候、日本の女性が嫁となりて $\frac{1}{4}$ の元氣を失ひ、母となりては依頼心ますます強くなり、こゝにも $\frac{1}{4}$ を失ひ、後家となりては $\frac{2}{4}$ を失ひつくして全くゼロとなるやうなものにては無之、流石生存競争

の酸苦さんくにきたへたる國人こくじんだけありて、島國なづての吾等われらにははめてやりたき想おもひこれありせり。このマダムなども、主人しゆじんの事業じぎやう(受負事業うけおひじぎやう)を人手ひとにやるは惜あはしいとて、女おんなだてらに繼續けいぞくして富とみをつくり居まり候せう、しかし金かねがないと人でないやうなはげしき國故くにゆゑ、あたり前まへのこと、島國なづてとても今年ねん後ごには自然じぜんにこの種のなね凄あまい元氣げんきがさかんとなるべく、それと同時に個人こじん中心ちゆうしんの我見説わがけんせつ、その毒どくをながすことあるべしと、林香まつばらくさき頭腦づのうにはまことに寒心かんしんのいたり候せう。

いかにして活いきてゆくかとの問題もんたいのために、一生いつしやうを戦たたひくらすなり、文明ぶんめいの外皮がいひをさたる野蠻人やばんじんにあらざるか博愛はくあいをとき献身けんしんをとく書物しよぶつはいたるところの店頭みせあきに、山やまの如ごとくつまれあれど、眞個しんこの仁じん義ぎを解かいするはこの國人こくじんには多おほからずと存候ぞんせう。私は

このみて戰國策せんごくさくをよむものに候せうが、いまの世界せかいといふものも、六國相反目ろくこくあひはんりした當時とうじとすこしもかはり無な之これなく、孟子もうしや孔子こうしのやうな、さげびが必用ひつように御座候ごせう……例れいの頑固がんこなる流義御りうぎご一笑被下度候いちやうひやくたごせう。金門カント公園公園に、加洲かしように在留ざいりゆうする獨逸人どいつじんが桑港市サンガシへ贈おくりものとせるゴエテ、シルレルの銅像どうざうこれあり候せう、その下したの芝生しばふは私のわたくしいつも詩集ししゆじを携たづへてねころぶ處ところに候せうが、獨逸人どいつじんのみやびたる誇ほこりにて敬服けいふしては居ゐるものに候せう、在米ざいまい日本人にほんじんには銅像どうざうたてるほどの金きんを集め得あつるや否いなやは、第二だいにとして、日本の贈物おくりもので候せうとて、この國くにに誇ほこるやうなものは何なんだろうと思おもふと心細こころこまくも相成候あひなりせう、本國ほんこくなる印度いんどにては僅わずかかにその痕跡こんせきをと認め、紹介しょうかい國こくなる支那しなにて舊きゆう夢むのあとをのこすばかりなるわが大乗佛敎だいじやうぶつぎやうこそ、無形むけいの銅像どうざう、無形むけいの賜たまものなれと、深ふかく祈願きげんをこ

らすことも有之候これありをさへす

變化へんかさだまりなき人事にんじの改良進歩かいはりしんぽといふうちには、
 時來とききたれば自ら出來みづかるやうなもの、宇宙うちうと人生じんせいとの
 大なる關聯かんれんにいたりては、玄妙げんみょうなる因縁いんえんあるにわ
 らざれば出來できがたきものかと存候ぞんぞう。私自身わたくしじんは島國しまくに
 の片田舎かたのなかの園丁えんていとして、一生いっせいの運命うんめいをさため候ぞうらう。
 必ずこの國くにに眞しんの福音ふくいんをつたふるものあるやうに
 つねにいのり居をすり候ぞうらう。今日こんにちはどうしたものかこん
 な手前てまへ味噌みそを書かきはじめ御笑ごわらひの程ほども恥はづかしく候ぞうらう。
 梅花ばいかの御返禮ごへんれいにもと、唯々ただガーデンをそゝるある
 させしも、毒々どくどくしき色の花いろのみにて、とても白梅びやくばい
 とはくらべがたく、寧ろげしもつて居をするものうち一いち
 番大事ばんだいじなものをさしわけんと存候ぞんぞうて、花はなビラ二
 枚まいさしわけ申候まうしせうらう、一日いちにち幼兒ようじとして教をへし子の去年こゝき
 就學じゆがくせるもの、一は四才しさいの幼兒ようじ、先生せんせい早く御ごかへ

り」とのてがみの由よし、本字ほんじは姉あねか兄あにかの筆ふでに候ぞうらう、そ
 のわからぬところ面白おもしろく候はずや、かゝる種類しゆるいの
 もの晴着はれぎのほけつとに一ッいっぱいつめ置候おきぞうらう、天涯落てんがいちく
 魄はの身み、どこで死しんでもこれ等らははなしがたきも
 のに候ぞうらう、この頃ころ右二人みぎにんから別べつのもの來きたりり候ぞうらうま、
 これはさしわけ申候まうしかしく

先月せんげつ十七日じちの夕ゆう、この書面しやうめんに接せうし、さらば又返またへん
 信しんを物ものせんかと思おもひ居をりし二十日にじゅうにちの朝あさ、新聞紙しんぶんし
 は彼の地かのちの震災じしんの慘狀さんじやうを報ほうじ越こしぬ。慘害さんがいに腦な
 める人ひと、何れ誰たれ彼かれのけぢめのあるべくもわ
 らざるべけれど、わけても、教をの道みちの爲ためめ、さ
 のみ健ぞとならぬ身を以もつて、他國たこくの人ひとの家に寄寓きよくう
 て慣なれぬ仕事しごとに身を委いし居をらるゝ彼かの人ひとの安否あんひ
 の程ほどもげに如何いかあらんと心こころもとなく思おもはれて

(東 生)

學校幼稚園のため

學校と幼稚園とに於ける管理の原則

女教師教授 町田則文

學校並に幼稚園を管理するの原則は校園其物に自ら備りて他より強ひられたるものにあらず。即ち校園の目的物たる兒童の精神中に原則の發端を有するものなり。植物學者は植物生長の原則を植物夫れ自身の中に求めざる可からず外部より原則を定めて之を支配すること能はざるなり。生理家は血液循環の原則を血液循環の事實中に探らざる可からず、太陽系統の運行は之を太陽系統其物の中に固有する法則に従つて理法を定めざる可からず。之れ等は皆吾人爲の法則を以て之を律す可からず。彼の有名なるニュートン氏が引力の

理法を定めたるは決してニュートン氏の獨創にあらずる可し。万物互に牽引するの事實は太古の昔よりありたることにて只ニュートン氏其人を待つて吾人は初めて此事實の動す可らざる原則たるを認知したるなり。其他ダーウ・ソンの發見と云ひワット氏の發見と云ひ何れも人力を以て定めたるものにあらず。否單に人力のみを以ては天下の事物に對しては如何なる効力をも生ずること能はざる可し。蓋し人間の能力は只纒かに自然の原則をして故障なく其作用を逞ふするの機會を作るに過ぎざる可し。今織物工業に於ける實例を以て之を證明せんに世人は一般に綿布絹布の織物を以て全然人力の之を作り出したるが如くに考ふれども決して然らざるなり。人間の能力は單に適當なる方法を用ゐて大小の絲を接觸せしめたるに過ぎず。其

他の作用は分子牽引の天然原則行はれて互に相ひ組み合ひ如何なる外力を加ふるも分離せずして一定の織物と成居るなり。若し此分子力のなかりせば織物の糸は忽ちに個々別々に分離して一定の形をなすこと能はざるならん。以上の如く天然界の事物に於ける原則發見の方法は一目瞭然に確定して一言も之れに向つて批難を試みることはざる可しと雖も此理由を人事界に應用して考ふることは能はざるは誠に古來人類の欠點の存する所ならん。

抑も古來よりの歴史を看るに政治界なり經濟界なり渾て人事上の範圍にありては各々原則を事實夫れ自身の中に求めずして猥りに外部より製作して以て之れを強ひんとせり。従つて之れか爲めに甲の認めて以て原則とする所のものは乙は之れを排

撃し乙の以て原則とする所のものは丙之れを排撃して遂に何れの原則が果して眞正の原則なるかを定むるに苦むこと多し加之のみならず抑壓の徒は無理に自己の認めたる原則を強ふんとして之れが爲めに弊害百出底止する所を知らず之れ畢竟するに原則發見の方法を誤りたる所以にして斯くの如き事實は人事界の範圍にありては古今の歴史上に其の實例多く人々が如何に盡力して社會大改造の方案を立てるも其の社會は始めより其の内に固有する所の性質及び運命即ち一定の原則に従つて運行し頑として動かざるを見る可きなり。全國民に向て命令したる國家の法律命令の如きも斯の如き任意の人造的方法を以てするときは決して一市村に於ける生活の潮流だも變更し得可きものにあらず。何れも皆事物夫れ自身の中に原來固有する

原則に據りて設定せざる可らず。國家は自ら支配せんが爲めに法律命令を宣言すれども此の法律命令は國家其物の固有する所の内面中にある原則を單に外面に發表したる迄にして國家は實際は此内面的法律命令にのみ従順するものなり。然るに猥りに人意を以て原則を設定して法律命令を作るときは其外面に顯はれたる形式は如何に立派なるも如何に完全なるも如何に周到なるも眞正の従順を得ること能はざるは勿論にして、古來より政治家が多く失敗を招きたるは主として此理由を知らざるに因るなり。

世上幾多の學校幼稚園を見るに訓育の方法と云ひ教授の方法と云ひ前述したる理由を省みざる所のもの頗る多し。若し前述したる理由が果して正鵠を得たりとするときは、校園にありても亦此理由

を以て之を支配せざる可からず尤も今日教育に従事するものは兒童身心の發達を以て教育方案の起點とす可き位の事は何人も之れを唱へざるものはなかる可し。然れども深く實際を洞見するときは云ふ所と行ふ所とを異にし未だ嘗て眞誠に根底より此理由を達觀したるものはあらざる可し。古今の教育家中眞に此理由を達觀したるものは夫れペスタロッチ、フレベルの二氏あるのみ。其他は多く兩氏の祖述したる方法を襲踏するに過ぎざる可し何となれば。今日の實際を看るに常に一定の教授方法とか一定の管理の方法とかに拘泥し實地教育家が自ら實際的に深く研究しあるもの少なく亦其學理を講ずるものは徒らに教育學理にのみ走り自ら實地に兒童教育を試みて學理を定めんとする勇氣に乏しく。實地家は實地にのみ抱泥し理論

家は理論にのみ拘泥し理論と實地と更に調和せざることを多ければなり。

今日我國の教育界は過渡の時代なり進歩の楛楛なり。故に理論と實際との調和せざるは亦止むを得ざるなり。敢えて深く之を咎めざる可しと雖も今日の現態をして正式の現況なりとして之に満足せんとするに至りては吾が輩之を難せざる可らず、今日の教育理論家に向つては將來益々實地の方面に於て材料を求め、亦實地家に向つては理論の研究を益々深くし以て實際上より原則を案出するの研究を盛んにせんことを希望するものなり。今を去ること數十年前北米合衆國に於て初めてペスタロツチ主義を採用したるときには時の教育家シエルドン氏、ホーレスマン氏等主としてクルーヂー氏（當時ペスタロツチ主義の爲めに北米に招か

れたる人）に就きて研究し從來米國に行はれたる理論的方法のみにては教育の大成を期するを能はざるを看破し理論と實際との調和の必要なる所以を研究せられたり、蓋し斯の如き大家が研究を初めたるなれば其他未流の人は何れも其流れを酌まざるはなきに至り遂に彼國に於ける小學教育の完全なる基礎をなしたりと云ふ。然るに我國現時の如くに理論家と實地家と調和せざる間は獨立堅固なる基礎の上に教育の實際方法を完全に立つること能はざるは勿論なりと知る可し。

凡そ各事物は其形を外部に發現して客觀的實在となる前には先づ人々の内部に其觀念あらざる可からず、此觀念が即ち客觀的形式となる所以ならん。例へば送達と云ふ觀念は鐵道と云ふ實體を現出し而して其鐵道は亦其鐵道をして現出せしめたる觀

念即ち送達の念を益々有効ならしむ。之を事物に於ける精神活動の周環と云ふ尙詳に述べれば速達の觀念は之を鐵道と云ふ外形的方法に發現して初めて精神の壓迫を解除す可し。而して此壓迫こそ常時不斷の衝力にして鐵道の事業は絶えず此壓迫を解除しつゝあるなり、然るに此の鐵道にして不完全なるか亦是鐵道夫れ自身の目的を達せざるときは更に再び精神界に壓迫を生じ來るは自然の傾向なり。故に苟も鐵道の事業を起したる以上は能く其發達し來りたる歴史を省みて以て精神へ戻り來る所の壓迫を成る可く少くせざる可らず、左れば鐵道は固定的死灰的の物体にあらざして絶えず精神界を往來するの生活物と見做さる可からず。若し鐵道にして此精神界を離るゝときは即ち單に外形的物体たるに過ぎざる時は其鐵道は最

早真正の鐵道にあらざるなり、若し其鐵道にして其精神界に於ける根據を失ふときは最早鐵道は何等の効能なきものなり。故に其鐵道は寧ろ精神界の物体にして而して其精神界こそ寧ろ鐵道の實體にして亦其存在する所以の原則なり。學校並びに幼稚園に於けるも亦然り校園は寧ろ兒童の精神界に於ける觀念の外形的發現に外ならざる可し故に校園にして單に外形的のみに偏するときは校園の効驗焉くにあるか。

兒童には系統的教育作用を受けて發展せんとするの觀念あり即ち客觀的學校又は客觀的幼稚園を現出せしむる所以なり。然り而して此客觀的校園は亦順番に兒童の精神界に歸復して其の發展を促すものなり、故に此客觀的校園は常時不斷に再び兒童の精神的觀念に復歸せざる可からず、即

ち其元來の目的と照應せざる可からず、故に客觀的校園と稱するものは兒童に於ける全精神作用中の一片現象にして、若し此全精神作用の範圍を離れて單獨に校園を設くるときは所謂無用の長物にして、畢竟するに客觀的校園は兒童に於ける此精神現象を實現したるに過ぎざるなり。即ち客觀的校園は兒童の内心に於ける理想の壓迫を解除せんが爲めに生れ來りたるものにして、苟も校園の設備方法にして此理想に適合せざるときは幾んど校園の效用なきに至る可し。然るに世上一般の實際に於ては教授方法を定め若くは訓育の方法を定むるに此理由を解せずして徒らに校園夫れ自身の外形上の性質より千遍一律に一定の規則を設定せんとするに似たり。恰も庖厨家がひと々の食欲如何を顧みずして猥りに山海の珍味を羅列すると一般

にして偶々來客をして食傷の弊害に至らしめざるも尚ほ何たる効驗をも生ずるに至らずして止むと同一様に終らんのみ、蓋し百害ありて一利なしとは之等を云ふにあらずして何ぞや。之に由て之を見るときは今日幾多の學校并びに幼稚園にありては宜しく此客觀的機關の何の爲めに發達し來りたるかを考へ訓育の方法なり又は管理の方法なり須らく之等の原則に基きて之を定めざる可からず。徒らに一定の強制的方法を以て之を定むるも寧ろ膠柱の嘆を免れざる可し。殊に余は幼稚園又は小學校の如き初等の學校にありて一層之を主張するものなり。何となれば中等以上の學校にありては已に生徒の年齢も長じ經驗もあり。多少生徒自ら自己の欲望と一致せざることあるときは其不満を外部に訴へんとする能力を有す

算七三

- (2) 次ニ裁クルニツノ数ノ最少ニ倍數ヲ求メヨ
319, 377, 429.
- (3) 甲乙丙三人ノ農夫アリ田ヲ耕スニ甲ハ四坪ヲ耕ス間ニ乙ト丙トハ協力シテ七坪ヲ耕シ乙ガ三坪ヲ耕ス間ニ丙ハ二坪ヲ耕ストスルニ甲ガ一畝ヲ耕ス間ニ丙ハ何程ヲ耕スベキカ
- (4) 利子繰込ニシテ期限チ一ケ年トシテ年利八分元金七百圓ノ二年八月月間ノ復利ヲ求メ
- (5) 減入時計ト鐵トヲ買ヒタルニ其定賣合セテ百二十五圓ナリシガ時計ハ一割減ハ五分ノ直下ダナナシタルガ爲メ都合百十四圓六十錢ヲ拂ヘリト云フ時計及鐵ノ買價各如何
- (2) ノ問題ニ就キテハ運算、答ヲ記シ 其他ノ問題ニ就キテハ運算、答ヲ記スベシ

理科 (二時間)

- (一) 雙子葉植物と單子葉植物とは花の構造上に如何なる區別を有するか
- (二) 動物界中最大なる部門の名稱を擧げよ
- (三) 肺臟及び腎臟の生理作用を記せ
- (四) 沸騰點と壓力との關係如何
- (五) 密閉したる器中にて木炭又は硫黃を燃やしたる後器内に存する總ての物質を記せ

裁縫科 (三時間)

- (一) 幅一尺六寸五分の表地を以て女綿入無垢一枚ヲ普通寸法に裁つには其用布の總丈何程を要するか
右の裁ち方を圖解し之に各部の名稱及び寸法を記入すべし
與ふる所の材料品にて四ツ身綿入の左の前身を裁縫せよ
但し其寸法は丈を實物の二分の一とし幅を實物通りとし
社を五分となすべし

▲保育實修科 豫て募集中なりし同科生は本月初旬入學を許可せざる、筈にて四ヶ月の定期修業後見込次第本人の都合若くは奉職口の都合に依り隨時卒業せしむる筈にて重に地方幼稚園の主任保母として配置する見込の由、斯く今後の卒業、時を定めざるが故に地方需用の模様により欠員は後を逐ふて生ず可く従つて今後の入學者は期を定めず志願者の有り次第、欠員の生ずるに從ひて補充入學を許さる、由なれば入學志願者は豫め願書を提出し置く方都合よかる可し。

同科は右の如く極めて自由なる修養の方法なれば

本年九月以後は從來の如く地方の幼稚園にて主任保母の欠乏に困ずるか如き事はなかる可く高等女學校の卒業生も新に最も適當にして最も愉快なる職業を見出し得るに至らん

▲教師の轉任 學習院の改革に付き全女學部に多數教官の更迭ありたる結果、當附屬小學の木内成氏は、全院教授に榮轉し、其後任として吉川ふみ子來任したり。此他附屬小學の阿部田、小柳二氏は辭任し、中井氏は附屬高等女學校に轉せられしより、新に藤岡、常光、大原の三氏就職せり、又附屬幼稚園には、平山久氏の後任として小柳雪子來任し、又田邊春子は病氣に由りて辭職せられたり。

●學習院の改革 去る九日華族就學規則並に學習

院學制同官制同規則の公布あり。十一日より從來の華族女學校を學習院に併合せられたり。抑も學習院設立は明治十年にしてそれより明治十七年七月華族女學校設立の事を決し給ひ翌十八年九月學習院女子部を廢し華族女學校設立の旨を達せられ同年十一月三十日皇后陛下行啓令旨を賜ひたり是れ即ち華族女學校開始の紀念日にして、爾來廿二年の星霜を経たり、然るに昨年學習院の學制規則改正あり、一大刷新を圖りしに次て、華族女學校も亦今般復舊して、學習院に併合し、學習院女學部と稱するとなりたるなり。程度は従前よりも高まり、文部省直轄高等女學校と同等にして、最上級の専修科を専門とし、普通學年を短縮し、高等學科の年限を長くしたり。皇后陛下には特に左の令旨を賜へり。

此度その校を學習院に併合せらるゝは、時を度り宜を制して、教務を統一せしめ給はんとの聖慮なるべし。教育の旨趣にありては、いさゝかも従前と異なる所なければ、在學の生徒は、よく其旨を奉體し、ますます學藝を勵み、婦徳を修めて、女子の本分を完くせんことを努めよ。

●文部省と諮問案の説明 來る五月五日より三日間開催せらるゝ全國學校教員會議に對し文部省より諮問案を提出せることは既報の如くなるが尙此程文部省より左の説明書を提出せり

第一問 尋常小學校一學年の兒童に修身書を持たしむるの可否
說明 趣旨明なりと認むるにより略す

第二問 尋常小學校に於ける一回の授業時間及休憩時間は何程を以て適當となすか但し毎週教授時數は現行規定に依る
說明 小學校に於ける各教科目の毎週教授時數は明かに小學校令施行規則の定むる所なれども如何に之を毎日に配當すべきか又毎日の總時間を何回に分割して教授すべきかは教育上

研究を要する所なり然るに從來一般の慣例に依れば概ね一時

間限とし之れを授業時間と休憩時間とに配當するを常とせり是れ果して適當の方法なるか本問は此の點に付き學校編制の如何學年の上下教科目の種類等に依り最も合理にして且實行の容易なる時間配當法の答案を得んことを期す

●小學兒童の健康調査 文部省囑托醫駿河氏は此程小學兒童の健康に就き調査せしが左の如き状態にありと云ふ

小學兒童百人比例不健康者

検査人員	不健康者
三十三年	七十二人九四
三十四年	七十六人九五
三十五年	七十六人九五
三十六年	七十六人九五
三十七年	七十八人七一

斯の如く不健康者の増加する原因とも見るべきは一は醫術の進歩に伴ひ體格検査の緻密に赴くにもよるべけれども、又往年文部省の學校衛生課廢止の爲め、各學校に對する衛生事項の、監督不行届

によるべしと云ふ、而して此適例は昨年京都に於ける某學校生徒を、治療手遅れの爲め失明に歸せしめたる如き、又畿内地方の某師範學校に傳染病發生したる折、應急手當の遅延せし爲め多數の患者を出したる等、其他多々ある由なり、右は一般の不健康者の調査なるが、更らに恐るべきは、近來小學兒童間に眼疾の流行することにして、其の統計は

小學兒童眼疾者百人比例

年度	男		女	
	三十三年	一七、八〇	一八、六八	
三十四年	一八、八一	一九、八二		
三十五年	一九〇六	一九、六七		
三十六年	一八、八〇	一九、七五		
三十七年	二〇、三〇	二一、五四		

右の如き惡結果を見たる原因は、一概に推測するを得ざるも、一には浮塵豫防及採光設備の不完全

なると、又一には各兒童の指頭の不潔なるを注意せざる、教員の怠慢なりと見るを得べしと云ふ。

●臺灣の女子教育 今回本島女子の爲に總督府國語學校第二附屬學校を設けて新に女子教育の門を開かれたるが目的は師範教育、技藝教育を施すにあり修業年限は師範及び技藝科は三ヶ年、師範速成科は二ヶ年、入學の資格は師範及び同速成科は年齢十四才以上二十五才以下公學校卒業者又は之と同等以上の學力あるもの技藝科は十三才より二十五才にして公學校四學年の課程修了者或は之と同等

●元良博士の總會演說 元良文學博士は去廿一日の總會に於て其教育所感を演說せられたり其詳細は次號に掲載す可けれど今其要點を摘記すれば左の如し。

明治初年の教育は兒童の程度や腦力の如何を斟酌するなど、云ふことなくとし、豫定の詰込み主義を遂行したるものなれば多少無理なる節もありしが學力優秀なるもの可なりに多かりき。然るに教授法は進歩し兒童心理學、勃興し教育の施設大に備はりて兒童學習の便宜頗る多大となれる今日は昔日の如き勉學の困難全く去りしと共に兒童の腦力は常に平易の仕事に慣れ其學力は漸次低下し行さつゝあるは誠に遺憾の事と云はざる可らず。惟ふに醫學の進歩が漸次衛生呼はりの聲となり、彼も不消化是も不消化と唯徒に消化し易きもののみ食せしむる結果會々僅かの不消化物に遭遇するや忽ちにして消化不良、腸胃可多兒等を起すと一般に教育學教授法の進歩は徒に兒童の腦力を軟弱に慣れしむるの嫌なきかを疑ふ云々。次には兒童

の記憶は余の經驗に因りて見るも六才以前のものを生長後迄に把握するを難し之に因りて見るに教育は六才以前には重んず可からずして其甚重んず可は習慣に在る可きか云々、尙終りに教育が兒童を取扱ふ傍ら之を實驗の材料として種々試験を行へると一時流行し爲めに多少批難の聲を聞きたれど然し是は全然廢す可きものにあらず寧ろ醫師が病人を治療する傍ら常に之を研究の材料とするが如く教員は平素教授の際注意して研究材料を蒐集するの必要ありと信ず云々等なりき。

●料理并に禮節の開祖　來る五月十一日日本橋南隣萬町常磐木俱樂部に於て石井泰次郎氏其他の發起にて料理開祖中納言山陰卿の千年祭を執行し祭式庖丁式料理製作品陳列等ある由全十二日全所に於て近世禮節小笠原開祖水島之成翁二百年祭を

執行し小笠流元祿式手藝品、婚禮式と結飾、包物、花結百種、水引、春夏秋冬花結等の陳列ある由當日午前十時より午後五時迄の中に本會々員たる名刺御差出の方は隨意縦覽し得らる、由同氏より申越されたり。

●前號の行の遅延に就て

巻を重ねる六、月を閲みすると六十四本誌は遂に一大改革を斷行するの時期に達し候事誠に快絶の儀に御座候 ひと記者また筆硯を新にして益斯界の爲めに盡くす可く覺悟罷在 候 然るに前號は製版の遅刻其他種々なる事情の爲めに遂に例月の發行期日に間に合ひ申さず發送亦意外に手間取て中には在京會員諸君にして總會の廣告御存知之なき方も御座候 ひと由何とも申譯なき次第にて役員一同並に弘道館主の深く陳謝する所に御座候

尚本號以下は準備全く相整ひ候に就き引續き従前通り發行致す可く候に付此儀御諒察下され度 候 頓首

尚序に編輯員は前號の口繪に名前を取り落したることを茲に御詫び申候 該口繪上圖は女子高等師範學校作法教室の景、下圖は同附屬幼稚園三の組室内の景に御座候

會 報

●第十一回總會 本會第十一回總會は豫告の通り去る四月廿一日女子高等師範附屬幼稚園に於て舉行せられたり、當日雜誌發送遅延の爲め總會廣告間に合はざる事もやあらんかと懸念したるに案の定雜誌不着の向き尠なからざる由にて大に恐縮しぬ。然れど幸に例日の事とて問合はされ聞

き傳へられて會場狭き迄に來會せられたるは幹事一同の大きに感謝する所なりき。定刻に及び中村主幹の開會の辭あり。幹事の會務報告(別項)あり、次に元良博士の演説、吉川氏のピアノ獨奏、酒井南陰の講演等あり、終つて陳列品を縦覽し、園遊會を開き茶菓を饗し、一同歡を盡くして全く散會したるは六時稍過ぐる頃なりき。

因に記す、當日會員中女持蠅蠅傘一本を紛失せし方あり、後には他の女持一本残り居り候、會員方の中にて御取違ひの事と存じ候、若し左様の方御座候は、至急御手数ながら附屬幼稚園迄御出で下され度願上候

會務報告(自明治三十八年四月至全三十九年三月)

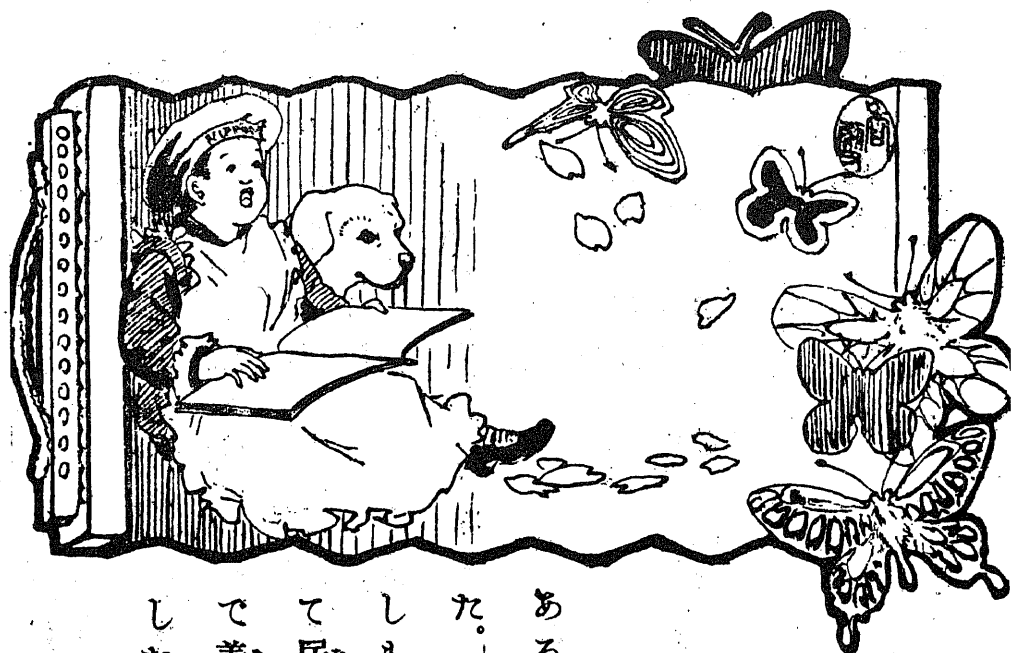
●當年度に於て遂行せし事項左の如し

- 一、總會 一回
 - 一、常會 四回
 - 一、幹事會 五回
 - 一、雜誌發行十二回(毎月一回宛)
 - 一、各區組合會
- 在京會員を便宜上七區に分ち各組合便宜會合し各自提出せし問題を議し本會常會に於て報告せり、
- 一、講習會
- 昨三十八年七月二十一日より向十日間東京府教育會内に於て幼稚園保育法夏期講習會を開けりこは從來中小學校教員のために種種講習會の權ありて其學力を修補し教授法の改良を計るあれど幼稚園保育法につきては絶えて此權なきを思ひ開催し

明治三十九年四月入會者

一〇〇	三九、一	——	三九、一〇	岡田千代
三〇	三九、一	——	三九、三	岸邊福雄
一二〇	三九、四	——	四〇、三	齋藤みね
一〇〇	三八、八	——	三九、五	廣瀬たのみ
一〇〇	三八、六	——	三九、三	小田むめ
一五〇	三八、三	——	三九、五	小野はな
一五〇	三九五	——	三九九	木村茂枝
一〇〇	三八、七	——	三九、四	安藤さつ
四四	三八、一二	——	三九、三	松岡みち
東京赤坂區青山南町一ノ一九	鈴木	綾		
高知縣中村町	小野	ふさ		
東京本所區永倉町本所幼稚園	直井	みち		
新潟縣三島郡寺治町 <small>尋常高等</small> 小學校	柳下	こい		
新潟縣長岡女子師範學校	横澤	テイ		
東京本所區吾妻橋小學校內	白井	初枝		
鳥取縣米子西町良善幼稚園內	青山	はる		





「うだつは上らないよ」

豊子

ある處に精作と云ふ男がありまし
 た。雨か降つても風が吹いても。少
 しも怠けないで毎日くよく働い
 て居りました。けれどもいつも貧乏
 で着物は破れ家は倒れかよつて居
 ました。

或るお天氣のよい夕焼のして居る日海岸の景色を眺めながら仕事場から自分の家へ歸らうとして居ると、是は不思議、何だか海の波の上に黒いものが歩いて居ます。そしてだんく陸の方へ來る様です。精作は何だらうと思つて暫く立つて見て居ましたが、やがて砂へ上がったのを見ると、犬の様な猿の様な、そして誠に穢ならしい獸でした。精作は變な動物もあるものだと思つて見て居ると、是は又不思議、其獸が口をききました。そして「おい、精作さん、お前さんは、何をそんなに、ほんやりして居るのです？」と云ひました。

精作は驚きながら、

「私は今家へ歸る處さ、けれどお前は一体何だへ」と聞きますと、

「私はね、うだつと云ふものですが、宿なしで困つて居るので一所に連れて行って下さいな」と云ひました。

そこで根が深切な精作ですから「いゝとも、く」と云つてやがて破



れかよつた家へ歸り、そして自分の食べる御飯の半分を分けて遣りました。是がら毎日、可愛がるて仲よくくらし居りました、或日の仕事事が久しぶりの休みで精作は朝から

家に居ったので御米を買ふお錢がなくなつてしまいましたから、
「おい／＼うだつ！今日は仕事も休みで晩の御飯を買ふお錢が
ないが困つたね、お前も嘸飢じいたらうが仕方がない明日迄我慢
してお呉れよ」と云いますと、うだつは平氣な顔で、

「なあにお錢なにか入りませんよ。私の居る中は手さへ三つ叩け
ばあなたの好きなものが目の前に出て來ます」と云いますから、
「それはききたいだね夫れちや此處で暖かい焚き立ての御飯とお
刺身とを出してほしいな」と云いますと、

「え／＼／＼幾らでも出して上げます。さあ手をお叩きなさい」
「そーか夫れは嬉れしい、夫れちや叩くよぼん／＼」と叩くと是
はまあ美味そーな焚き立ての御飯と刺身とがきれいに其處に出

ましたので二人は喜んで之を食べました。さあ斯うなると精作も欲が出て、

「僕の着物がきたないから新しい着物がほしいな。ほんくと叩くと着物が出る、

「やあ新しい着物が出たぞ有難いな。今度は何にしやうかな。あ、そーだ家が壊れ掛つたから此家をもっと立派にして貰ひたいなちよんくく」と叩くと今迄のきたない家は何處かへ行つてしまつて夫れはくきれいな御殿の様な家になりました。

「やあーきれいになつた、是れでまあ心持がよくなつた」と喜んで居ました。さあ斯ふなると今迄勉強家であつた精作も段々怠けて来て、しまいは仕事にも行かず働きもしないで唯ぶらく

と遊んで許り居りました。そして始めは何とも思はなかつたウダツが何だかイヤになつて、

「ウダツはいつもくきたない獸だなあ、それにお客様が來ても誰が來ても構はずに歩きまわるものだから皆んな嫌がつて歸つてしまふ。赤ん坊などは恐はがつて泣くぢやあないか、仕様がないなあ」とこぼして居ました。そして或日の事不意に思ひ付ひて

「いゝや、く、犬小屋の様な箱を作らへて逐ひ込んで置け」と遂々動物園の猿見た様に箱詰めにしてしまひましたのでウダツは出て遊ぶ事が出来ません。

「精作さんはひどい人になつたなあ。折角僕が斯んな立派な家やあんな立派な着物やそれから美味しい御馳走を出して遣つて居



「やあ是はしまつた。と後歸りして横町から抜けて逃げ出しました。た、するとそれを見つけた精作はやあ大變だウダツに遁げられて堪まるものかと後を逐ひかけながら」

るのに僕を斯んな處に押し込んでしまつた。いゝや僕は今に遁げ出してしまあふやと獨り言を云つて居ましたが或日の事精作が外に出て散歩して居る中に一生懸命箱を破つて遁げ出しました。

うまいぞ遁げ出して遣つた。早く見付

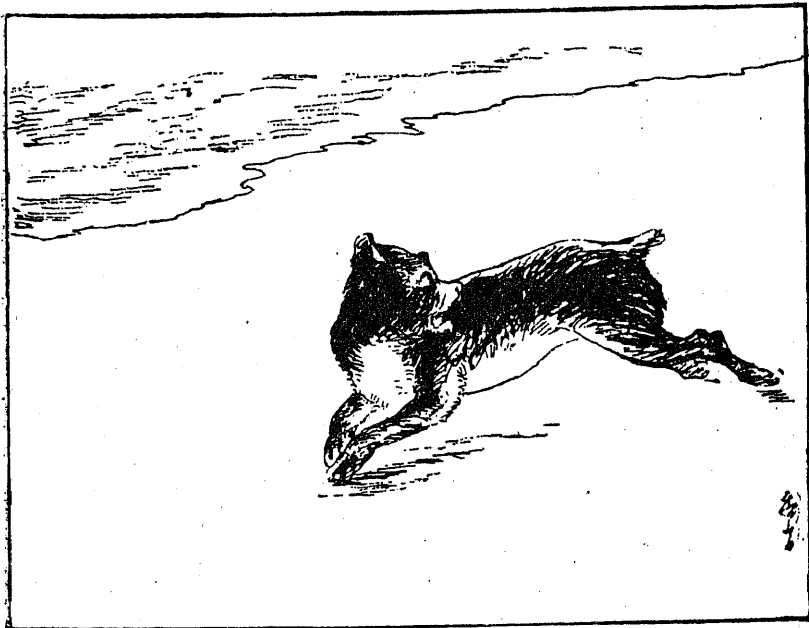
らない中に海の方へ行かう」と思つて驅けて行くと丁度向から精作が歸つて來ましたので、

「おほい〜ウダツやあ〜」と呼
びましたか

ウダツは平気で、

「なに構ふものか、もーあんなひと
い家に居るのは嫌やだ」と獨り言云
ひながらどん〜海の上をかけて
行き、やがて精作が砂の上に来て
ほんやり立って居るのを振りかへ
りながら、

「もーウダツは上らないよ」と云ふ
て行ってしまひましたが、夫から間



もなく精作はだんく貧乏になって行って、今度はもうウダツが居ませんから、いくらぼんくと手をたよいても、何も出て来ませんで、とうく一文なしになってしまひましたとさ。

(おしまひ)





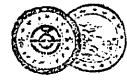
領受狀褒及牌賞會覽博業勸國內回五第

標商錄登



壽美禮
おしろい

牌商功會評品會



THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE
製煉トツレオイワッ
入器子硝白乳 附蓋錫
い物しお禮美壽



●壽美禮おしろい●
り製定(大塊 二十錢)
價(小塊 十二錢)
水製定(大塊 二十五錢)
價(小塊 十五錢)
ヅワイオレット水製

すみれ白粉は 歐米諸國に専ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素新成績液體等をも以て配劑しあるを以て肌を艶麗ならしめ香馥郁として長時間保續するの性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顔肌へを清々しく天然の色白さに至るべし『華』『かしら』は芳香馥郁と長く保つが故宴會 祝席、雜踏の場所に臨て衛生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ、流行せり

●西洋 洗滌劑 ●**壽美禮** あらひ粉の特性 ●
綠、藍、紅彩蝶番ひ 大袋 入 入 二 錢 錢
鐘 詰 六錢五厘 袋 入 壹 錢

◎弊舖製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に専ら賞登する香料及弊舖新製の原料を用ひて處せすものなれば朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあか花落し御肌を美しくす
◎常に髪洗ひに用ひ給へば髪のはげりを取り油あか等を生ぜず又半ぬりハンカチーフ精綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を潔白する性あり
◎使用法は普通あらひ粉の半分にて能し 又は温湯に溶し又はぬかに混ぜ入浴の際用ふるを良しす

標商錄登
粉ひらあるなく白色洋
SUMIRE
Washing Powder
粉ひらあ禮美壽



製造本舖

東京 東 兩國
元町 兩 國橋 際

壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場劇場運動場に有り

見よ！大發展擴張の婦人世界！

大好評

婦人世界

大好評

五月三日發行 第一回 第五號 一冊 拾五錢 郵稅 五分 分郵 九錢 一年 七圓 七錢

- ◎久遠宮妃殿下と若宮妃宮殿下
- ◎東伏見宮邸内日本婦人衛生會
- ◎各女學校卒業生總代と製作品
- ◎華族女學校及女子大學卒業生
- ◎跡見女學校卒業生並に教職員

口繪

- ◎藤見
- ◎花と小犬
- ◎杜若
- ◎躑躅

彩色石版 繪手本

- ◎藤見
- ◎花と小犬
- ◎杜若
- ◎躑躅

婦人の日常生活法

◎婦人は何が一番大切か ◎朝は如何に床を離るべきか ◎いろいろの悪い習慣 ◎いろいろの善い習慣の夜具は如何に疊むべきか ◎廁には何時行くべきか ◎齒に如何に磨くべきか ◎顔は如何に洗ふべきか ◎洗面水は何を交ふべきか ◎手拭は如何に便ふべきか ◎鼻は如何に洗ふべきか ◎石鹸と洗粉とは何れが好きか

村井弘齊

女學生に家事を見習はしむる法

- ◎妻君重寶記
- ◎便利なる西洋家具
- ◎繼母の鑑菊池博士夫人
- ◎樂石生
- ◎女子の天職
- ◎理科大學長 箕作佳吉
- ◎婦人の衛生
- ◎醫學士伊庭秀榮
- ◎家庭菓子製法
- ◎生花指南
- ◎鹽づく子供の所置
- ◎大村仁太郎

女學生墮落の真相

- ◎最新流行の婦人靴
- ◎新形洋傘
- ◎可憐しい
- ◎可憐しい
- ◎出産時の心得
- ◎家庭
- ◎男女學生の交際
- ◎學壇
- ◎美女となる法
- ◎女子不可見記

松齊

- ◎家庭料理
- ◎赤堀峰吉
- ◎石井泰次郎
- ◎小兒の食物
- ◎ドクトル
- ◎加藤照賢
- ◎莊田平五郎氏の家庭
- ◎古月庵

- ◎育兒問答
- ◎衛生問答
- ◎小説
- ◎秋子

長谷部湘雨

別附錄 悲劇女道樂本

村井並齊 懸賞 讀者

後付の二

元兌發

東京 橋本 二町 地番

實業之日本社

電話 七四八番 (新橋) 實業之日本社

數年難治の慢性胃病を根治し
消化機能を強壯健全にす 靈藥

胃病根治劑

從來世に胃病藥と
頗多しと雖も
皆一時の苦痛
を凌ぐ制酸劑
抑て重曹、マグ
ネシヤ、苦味劑

の如き一時おさるムネスカシの舊式靈藥のみにして未だ普て根治的に
其病の基因を斷つ良藥あるを見ず本劑は獨乙國高名大醫ノアル氏處
方に基づき本邦胃病患者に適切なる最新有効藥を配合し百方實驗其奏効
顯著なるを確證致せし最も進歩せる完全なる新藥にして數年難治の
頑固慢性胃病本により根著つて根治し消化機能を健全
にすならしめ食慾を促進し便通を快くし氣力を壯にし精神を爽快活潑に
する空前の完全最新藥なれば從來種々維多の胃病藥を用ひて効なく多
年病苦に呻吟せる患者は一日も早く本劑を服し病根を斷絶し無病強健
の大幸を得られし患者は一日も早く本劑を服し病根を斷絶し無病強健
(藥價) 靈劑四拾錢 試劑八拾錢 參劑壹圓拾錢 郵券代用式附呈し

美白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色
黒き男女にても特別製式 純白色に變化し麗美の容貌となる
劑を用ひれば忍び肉質 純白色に變化し麗美の容貌となる
多の色白垂を忍び肉質 純白色に變化し麗美の容貌となる
特別を究め真に奇効顯著の確證新劑 實は並製金壹圓貳拾錢特別製金壹
圓七拾錢

以上 專賣元 東京市神田五日新館藥房
二藥 軒町拾九番地

月やくおるる

下す特効あり本劑靈劑分を用ゆれば二三ヶ月間滞りたる月經にて
もキレに流下す又特別製分を用れば半年以上の月經閉止及び
血塊つ月經不調月經不順より起る
子宮病血の道不調全治 悲血毒即
し多年滞りの古血及毒血を
を一掃するを確證す但し本劑は其効
効種々顯著なるも痛も痛生
若安心して試薬あれは靈劑分七拾錢
貳劑分壹圓貳拾錢參劑分壹圓七拾錢特別
製分貳圓貳拾錢 大盛を懐き近時
注意し本劑の 類似偽藥類は用藥者は深く注意ありて專賣元日新館藥房
類似偽藥類は用藥者は深く注意ありて專賣元日新館藥房



快通流

わきが

根治確證
新發見藥

醫藥靈藥百方子を盡せし如何程頑固な
頑固劇烈の慢性わきがにても
世に改良根治新藥なり速に試す苦痛を脱せし
正根根治分 因甘 頑固劇烈の慢性根根治分貳圓貳拾錢
郵券代用必ず二劑増の事

以上 專賣元 東京市神田五日新館藥房
貳藥 軒町拾九番地

心の花

編輯主幹 佐々木信綱

第十卷 第五

五月一日發行

森鷗外博士の「ハツプトマン」に就きてと題する二十頁に渉る長篇は「心の花」五月號の卷首を飾り佐々木信綱氏の苦心に作れる短歌五十首亦本號に掲げらるべし其他小杉楡邨博士依田學海翁の文話共に珍たるべく川田順石博千亦兩氏片山廣子女史の短歌白岩艶子女史及竹柏會全人の美文等例に因て賑はし

△定價一冊郵税共金拾三錢 半年分前金七拾五錢

日本橋區本石町一ノ一 竹柏會出版部

後付の四

學 習 院 女 子 歌 田 下
部 史 女 子 歌 田 下
長 著

發行所

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

女子の修養

▲廿世紀的女子の本分を教ふるは本書也▼

▲家庭團樂の捷徑を説けるは本書の特色也▼

▲女子教育の眞理を平易通俗に説明して遺憾無▼

▲淫靡放縱の弊を矯め貞淑勤勉の美をやしなふ▼

▲交際應接の作方を教ゆるは本書の特色也▼

▲行文流暢趣味津々女流必須の寶典也▼

▲總てふりかな付讀み安き本▼

洋裝頗ル美本

菊判形

正價金七十錢

郵税八錢

女子高等師範學校教授 東基吉先生著

新案

育兒日誌

洋裝美本紙數凡そ四百五十頁
定價三十錢(總クローヌ) (全二冊)
特製五拾錢(總 革) (全一冊)

●子供の日記は我子の教育上無二の参考書にして又唯一の方針を示す。

●子供の日記は我子の最初よりの完全にして最も信據すべき傳記なり。

●子供の日記は我子の將來父母に對する謝恩の觀念を一層甚深ならしむ。

●思慮ある父母は必ず子供の日記を記せざるべからずこれ我子に對する父母の責任なり義務なり。

●育兒日誌は實に父母をしてこの責任と義務とを果さしめんが爲めに發刊せられたるものなり。

本書は東先生完全なる育兒日記のなきがために世の父母が兎角子供の日記を記し行くを怠りが從來我國に記入の方法の簡便なるが附録多しは兒童教育上衛生上幾の餘り多年考察の結果今回新に考案せられたるものにして、**記入の方法の簡便なるが附録多しは兒童教育上衛生上幾の餘り多年考察の結果今回新に考案せられたるものにして、**形數葉とを添へられ**子供ある家庭には是非とも備へざるべ**切**文明的なる** **出產の祝詞として** **適**

發兌元

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

◎子供ある家庭への贈り物◎小學校兒童への賞品適當
 高等師範學校教授東基吉先生著◎國觀◎香雪畫伯の畫

日曜讀本

菊到形頗る美本
 口繪插畫四拾餘個
 正價十五錢郵稅四錢

土曜日の夕方とか日曜日の朝とか其他の學校のお休みの日の子供等の讀本の爲めに修身とか地理とか地理とかの中から極めて趣味ある題を選んで面白くかゝれたのがこの日曜とくはんです中には面白く可笑しいお伽噺もあれば西洋の考へ物や格言や精功な繪さかたと室内遊戯などもある。挿繪の數多いこと此上なし
 子供を愛する父母、子供を教育せらるる教師諸君に謹みて此の日曜讀本のせられる

伊藤眞一郎先生著 (新刊)

長壽論

菊到形全一冊
 正價金貳十錢
 郵稅金四錢

△自己の生命を長壽ならしめんとするの士は速に一讀せられよ
 △男女身體虛弱なる人は本書を繙け

後付の八

發行所 東京市大橋區 弘道館

書刊新の々噴評好

文學博士 姉崎正治先生著

○大好評初版賣切再版印刷中

國運と信仰

文學士 北澤定吉先生新著

○初版忽ちに賣切再版發行

洋裝頗る美本全一冊
正價 金壹圓
郵稅 金十錢
紙數 五百九十餘頁

偉人耶穌

文部省視學官針塚長太郎先生
農科大學教員養成所山崎德吉先生
共著

洋裝菊判形頗美本
全一冊
正價 七十一錢
郵稅 八十錢

養蠶教授指針

男爵 金子堅太郎先生著

(寫眞插畫數個入)
全一冊
正價 金廿八錢
郵稅 四錢

日本教育之將來

▲教育者は速かに本書の一讀を望む

○初版賣切れんとす

菊判形全一冊
正價 二十錢
郵稅 四錢

後付の九

館道弘 一町工大南區橋京京東 所行發

りあに店書の處る到國全は所賣發

フレールベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレールベル會ト稱シ東京ニ置ケ
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ購出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達セシガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
 - 一 總會 毎年四月二十一日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保育參列品幼兒成績物展覽會、會務ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
 - 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス
 - 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスル者ヲ以テ組織ス但シ別ニ組合會規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
- 第七條 雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シ之ヲ會員ニ配布ス
- 一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ケ
 - 會長 一人 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 十人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第九條 主幹ハ會長ノ特選トス
- 第十條 幹事ハ會員ノ互選トシ其任期チ二ケ年トス
- 但シ毎年半数ヲ改選スルモノトス
- 第十一條 評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルコトアルベシ
- 第十三條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ス

謹告

戰後の教育的經營は女子教育と幼兒教育との發展に俟つこと切なり。而して本會は實に其指導者たる可き重責を荷ふ。従つて其機關雜誌たる本誌は年と共に其内容を精選し、今又大に改革を實行せり。讀者諸君希くば益々自重自信以て我保育界の爲に盡されんことを。

フレールベル會

謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者諸君の質疑照會に應ず、

但返信料を要す。

本誌は又一般讀者の寄稿を歓迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但投稿は、凡べて左の規則によること。

- 一、用紙は、白紙、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。
- 一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。
- 一、原稿は、一切返附せざるべし。
- 一、封書の表には、凡て婦人子ども投稿と明記せらるべし。
- 一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。
- 一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから其割合で何ヶ月かを纏めて東京京橋區南大工町一番地書肆弘道館へ御送金の上本會へ御申込下さい、さすれば雜誌は該館より御送付致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合で矢張全館へ御注文下さい。

一冊金拾錢六冊前金五拾七錢貳冊金一圓拾錢外に郵税一冊五厘づゝ、

明治卅九年五月一日印刷
同 年五月五日發行

禁轉載

發行兼編輯者 辻本卯藏
印刷者 東京市京橋區南大工町一番地日下主計
發行所 東京市神田區錦町二丁目十九番地フレンジャー會
女子高等師範學校附屬幼稚園内

發賣元 弘道館

東京市京橋區南大工町一番地

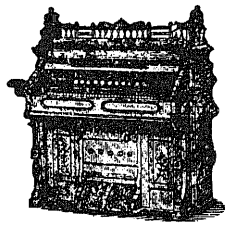
大賣捌 東京堂 金昌堂 北隆館 東海堂

明治三十四年二月廿八日第三種郵便物認可

山葉製風琴

(附 險 保)

壹號形金拾六圓五拾錢	貳號形金拾六圓五拾錢	參號形金拾六圓五拾錢	四號形金拾六圓五拾錢	五號形金拾六圓五拾錢	六號形金拾六圓五拾錢	七號形金拾六圓五拾錢	八號形金拾六圓五拾錢	九號形金拾六圓五拾錢	十號形金拾六圓五拾錢	十一號形金拾六圓五拾錢	十二號形金拾六圓五拾錢	十三號形金拾六圓五拾錢	十四號形金拾六圓五拾錢	十五號形金拾六圓五拾錢	十六號形金拾六圓五拾錢	十七號形金拾六圓五拾錢	十八號形金拾六圓五拾錢	十九號形金拾六圓五拾錢	二十號形金拾六圓五拾錢	二十一號形金拾六圓五拾錢	二十二號形金拾六圓五拾錢	二十三號形金拾六圓五拾錢	二十四號形金拾六圓五拾錢	二十五號形金拾六圓五拾錢	二十六號形金拾六圓五拾錢	二十七號形金拾六圓五拾錢	二十八號形金拾六圓五拾錢	二十九號形金拾六圓五拾錢	三十號形金拾六圓五拾錢
------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------



● 船來洋琴、參百圓以上千五百圓迄各種
 ● 船來風琴、百圓以上千五百圓迄各種
 ● 樂隊用陸軍々々樂用吹奏樂器各種
 ● 戰捷紀念國旗印銀笛數種
 ● 八人組織簡易吹奏樂器一組金拾圓
 ● 右の外手風琴、ハーモニカ、船來フラジ
 ● ヨの外手風琴、ハーモニカ、船來フラジ
 ● 各種郵券貳錢御送附わらば美麗なる目
 ● 録進呈す



○ 鈴木製ヴァイオリン
 金五圓以上五拾圓位迄各種
 弓金壹圓五拾錢以上各種
 箱金壹圓五拾錢以上各種
 其他附屬品等各種

◎山葉洋琴金參百圓以上各種

(詳細代價表御申)
 越次第進呈ス

山葉風琴ハ最良ノ原料ヲ以テ製造セララル、ガ故ニ其構造堅牢音律精確ニシテ本邦製風琴中ニ於テ最モ優秀ナルノミナラズ之ヲ歐美ニ比スルモ些ノ遜色ナク從來各博覽會ニ於テ師ニ最高名譽ノ賞牌ヲ受領シ汎ク歐米各國へ輸出シテ到ル處好評ヲ博シツ、アルヲ以テモ其眞價ヲ窺知スルヲ得ベシ

鈴木製ヴァイオリンハ本邦ニ於ケル該器製造ノ嚆矢ニシテ爾來製作上幾多研鑽ノ結果今ヤ長足ノ進歩ヲ遂ゲ音量大富品質佳良舶來品ニ比シ毫モ劣ル所ナキ精良品ヲ製スルニ至レリ而シテ價格亦低廉内國ニ於ケル夥多ノ需用ヲ充タシ至ル所多ク賞讃ヲ得ツ、アルヲ以テモ其眞價ヲ發揮シツ、ハ弊社ノ最モ光榮トスル所ナリ

シガルオノアビ
 繕修律調